

マタイによる福音書

Matthew

新約聖書

第1章

- 1 アブラハムの子、ダビデの子、イエス・キリストの系図。
- 2 アブラハムがイサクを生み、イサクがヤコブを生み、ヤコブがユダとその兄弟たちを生み、
- 3 ユダがタマルによってペレツとゼラフを生み、ペレツがヘツロンを生み、ヘツロンがアラムを生み、
- 4 アラムがアミナダブを生み、アミナダブがナフションを生み、ナフションがサルマを生み、
- 5 サルマがラハブによってボアズを生み、ボアズがルツによってオベデを生み、オベデがエッサイを生み、
- 6 エッサイがダビデ王を生んだ。ダビデがウリヤの妻によってソロモンを生み、
- 7 ソロモンがレハブアムを生み、レハブアムがアビヤを生み、アビヤがアサを生み、
- 8 アサがヨシャファテを生み、ヨシャファテがヨラムを生み、ヨラムがウジヤを生み、
- 9 ウジヤがヨタムを生み、ヨタムがアハズを生み、アハズがヒゼキヤを生み、
- 10 ヒゼキヤがマナセを生み、マナセがアモンを生み、アモンがヨシヤを生み、
- 11 バビロン捕囚のころ、ヨシヤがエコンヤとその兄弟たちを生んだ。
- 12 バビロン捕囚の後、エコンヤがシェアルティエルを生み、シェアルティエルがゼルバベルを生み、
- 13 ゼルバベルがアビウデを生み、アビウデがエルヤキムを生み、エルヤキムがアゾルを生み、
- 14 アゾルがツァドクを生み、ツァドクがアキムを生み、アキムがエリウデを生み、
- 15 エリウデがエレアザルを生み、エレアザルがマタンを生み、マタンがヤコブを生み、
- 16 ヤコブがマリアの夫ヨセフを生んだ。キリストと呼ばれるイエスは、このマリアからお生まれになった。
- 17 それで、アブラハムからダビデまでが全部で十四代、ダビデからバビロン捕囚までが十四代、バビロン捕囚からキリストまでが十四代となる。
- 18 イエス・キリストの誕生は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人がまだ一緒にならないうちに、聖霊によって身ごもっていることが分かった。
- 19 夫のヨセフは正しい人で、マリアをさらし者にしなくなかったので、ひそかに離縁しようと思った。
- 20 彼がこのことを思い巡らしていたところ、見よ、主の使いが夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフよ、恐れずにマリアをあなたの妻として迎えなさい。その胎に宿っている子は聖霊によるのです。
- 21 マリアは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方がご自分の民をその罪からお救いになるのです。」
- 22 このすべての出来事は、主が預言者を通して語られたことが成就するためであった。
- 23 「見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」それは、訳すと「神が私たちとともにおられる」という意味である。
- 24 ヨセフは眠りから覚めると主の使いが命じたとおりにし、自分の妻を迎え入れたが、
- 25 子を産むまでは彼女を知ることはなかった。そして、その子の名をイエスとつけた。

第2章

- 1 イエスがヘロデ王の時代に、ユダヤのベツレヘムでお生まれになったとき、見よ、東の方から博士たちがエルサレムにやって来て、こう言った。
- 2 「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。私たちはその方の星が昇るのを見たので、礼拝するために来ました。」
- 3 これを聞いてヘロデ王は動揺した。エルサレム中の人々も王と同じであった。
- 4 王は民の祭司長たち、律法学者たちをみな集め、キリストはどこで生まれるのかと問いただした。
- 5 彼らは王に言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者によってこう書かれています。
- 6 『ユダの地、ベツレヘムよ、あなたはユダを治める者たちの中で決して一番小さくはない。あなたから治める者が出て、わたしの民イスラエルを牧するからである。』」
- 7 そこでヘロデは博士たちをひそかに呼んで、彼らから、星が現れた時期について詳しく聞いた。
- 8 そして、「行って幼子について詳しく調べ、見つけたら知らせてもらいたい。私も行って拝むから」と言って、彼らをベツレヘムに送り出した。
- 9 博士たちは、王の言ったことを聞いて出て行った。すると見よ。かつて昇るのを見たあの星が、彼らの先に立って進み、ついに幼子のいるところまで来て、その上にとどまった。
- 10 その星を見て、彼らはこの上もなく喜んだ。
- 11 それから家に入り、母マリアとともにいる幼子を見、ひれ伏して礼拝した。そして宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。
- 12 彼らは夢で、ヘロデのところへ戻らないようにと警告されたので、別の道から自分の国に帰って行った。
- 13 彼らが帰って行くと、見よ、主の使いが夢でヨセフに現れて言った。「立って幼子とその母を連れてエジプトへ逃げなさい。そして、私が知らせるまで、そこにいなさい。ヘロデがこの幼子を捜し出して殺そうとしています。」
- 14 そこでヨセフは立って、夜のうちに幼子とその母を連れてエジプトに逃れ、
- 15 ヘロデが死ぬまでそこにいた。これは、主が預言者を通して、「わたしは、エジプトからわたしの子を呼び出した」と語られたことが成就するためであった。
- 16 ヘロデは、博士たちに欺かれたことが分かると激しく怒った。そして人を遣わし、博士たちから詳しく聞いていた時期に基づいて、ベツレヘムとその周辺一帯の二歳以下の男の子をみな殺させた。
- 17 そのとき、預言者エレミヤを通して語られたことが成就した。
- 18 「ラマで声が聞こえる。むせび泣きと嘆きが。ラケルが泣いている。その子らのゆえに。慰めを拒んでいる。子らがもういないからだ。」
- 19 ヘロデが死ぬと、見よ、主の使いが夢で、エジプトにいるヨセフに現れて言った。
- 20 「立って幼子とその母を連れてイスラエルの地に行きなさい。幼子のいのちを狙っていた者たちは死にました。」
- 21 そこで、ヨセフは立って幼子とその母を連れてイスラエルの地に入った。

- 22 しかし、アルケラオが父ヘロデに代わってユダヤを治めていると聞いたので、そこに行くのを恐れた。さらに、夢で警告を受けたので、ガリラヤ地方に退いた。
- 23 そして、ナザレという町に行き住んだ。これは預言者たちを通して「彼はナザレ人と呼ばれる」と語られたことが成就するためであった。

第3章

- 1 そのころバプテスマのヨハネが現れ、ユダヤの荒野で教えを宣べ伝えて、
- 2 「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」と言った。
- 3 この人は、預言者イザヤによって「荒野で叫ぶ者の声がする。『主の道を用意せよ。主の通られる道をまっすぐにせよ』」と言われた人である。
- 4 このヨハネはらくだの毛の衣をまとい、腰には革の帯を締め、その食べ物はいなごと野蜜であった。
- 5 そのころ、エルサレム、ユダヤ全土、ヨルダン川周辺のすべての地域から、人々がヨハネのもとにやって来て、
- 6 自分の罪を告白し、ヨルダン川で彼からバプテスマを受けていた。
- 7 ヨハネは、大勢のパリサイ人やサドカイ人が、バプテスマを受けに来るのを見ると、彼らに言った。「まむしの子孫たち、だれが、迫り来る怒りを逃れるようにと教えたのか。
- 8 それなら、悔い改めにふさわしい実を結びなさい。
- 9 あなたがたは、『われわれの父はアブラムだ』と心の中で思っはいけません。言っておきますが、神はこれらの石ころからでも、アブラムの子らを起こすことができるのです。
- 10 斧はすでに木の根元に置かれています。だから、良い実を結ばない木はすべて切り倒されて、火に投げ込まれます。
- 11 私はあなたがたに、悔い改めのバプテスマを水で授けていますが、私の後に来られる方は私よりも力のある方です。私には、その方の履き物を脱がせて差し上げる資格もありません。その方は聖霊と火であなたがたにバプテスマを授けられます。
- 12 また手に箕を持って、ご自分の脱穀場を隅々まで掃ききよめられます。麦を集めて倉に納め、殻を消えない火で焼き尽くされます。」
- 13 そのころ、イエスはガリラヤからヨルダン川のヨハネのもとに来られた。彼からバプテスマを受けるためであった。
- 14 しかし、ヨハネはそうさせまいとして言った。「私こそ、あなたからバプテスマを受ける必要があるのに、あなたが私のところにおいでになったのですか。」
- 15 しかし、イエスは答えられた。「今はそうさせてほしい。このようにして正しいことをすべて実現することが、わたしたちにはふさわしいのです。」そこでヨハネは言われたとおりにした。
- 16 イエスはバプテスマを受けて、すぐに水から上がられた。すると見よ、天が開け、神の御霊が鳩のようにご自分の上に降って来られるのをご覧になった。
- 17 そして、見よ、天から声があり、こう告げた。「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。」

第4章

- 1 それからイエスは、悪魔の試みを受けるために、御霊に導かれて荒野に上って行かれた。
- 2 そして四十日四十夜、断食をし、その後で空腹を覚えられた。
- 3 すると、試みる者が近づいて来て言った。「あなたが神の子なら、これらの石がパンになるように命じなさい。」
- 4 イエスは答えられた。「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばで生きる』と書いてある。」
- 5 すると悪魔はイエスを聖なる都に連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて、
- 6 こう言った。「あなたが神の子なら、下に身を投げなさい。『神はあなたのために御使いたちに命じられる。彼らはその両手にあなたをのせ、あなたの足が石に打ち当たらないようにする』と書いてあるから。」
- 7 イエスは言われた。「『あなたの神である主を試みてはならない』とも書いてある。」
- 8 悪魔はまた、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての王国とその栄華を見せて、
- 9 こう言った。「もしひれ伏して私を拝むなら、これをすべてあなたにあげよう。」
- 10 そこでイエスは言われた。「下がれ、サタン。『あなたの神である主を礼拝しなさい。主にのみ仕えなさい』と書いてある。」
- 11 すると悪魔はイエスを離れた。そして、見よ、御使いたちが近づいて来てイエスに仕えた。
- 12 イエスはヨハネが捕らえられたと聞いて、ガリラヤに退かれた。
- 13 そしてナザレを離れ、ゼブルンとナフタリの地方にある、湖のほとりの町カペナウムに来て住まわれた。
- 14 これは、預言者イザヤを通して語られたことが成就するためであった。
- 15 「ゼブルンの地とナフタリの地、海沿いの道、ヨルダンの川向こう、異邦人のガリラヤ。
- 16 闇の中に住んでいた民は 大きな光を見る。 死の陰の地に住んでいた者たちの上に 光が昇る。」
- 17 この時からイエスは宣教を開始し、「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」と言われた。
- 18 イエスはガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、二人の兄弟、ペテロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレが、湖で網を打っているのをご覧になった。彼らは漁師であった。
- 19 イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう。」
- 20 彼らはすぐに網を捨ててイエスに従った。
- 21 イエスはそこから進んで行き、別の二人の兄弟、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、父ゼベダイと一緒に舟の中で網を繕っているのを見ると、二人をお呼びになった。
- 22 彼らはすぐに舟と父親を残してイエスに従った。
- 23 イエスはガリラヤ全域を巡って会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、民の中のあらゆる病、あらゆるわずらいを癒やされた。
- 24 イエスの評判はシリア全域に広まった。それで人々は様々な病や痛みを苦しむ人、悪霊につかれた人、てんかんの人、中風の人など病人たちをみな、みもとに連れて来た。イエスは彼らを癒やされた。

- 25 こうして大勢の群衆が、ガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤ、およびヨルダンの川向こうから来て、イエスに従った。

第5章

- 1 その群衆を見て、イエスは山に登られた。そして腰を下ろされると、みもとに弟子たちが来た。
- 2 そこでイエスは口を開き、彼らに教え始められた。
- 3 「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです。
- 4 悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるからです。
- 5 柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐからです。
- 6 義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるからです。
- 7 あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるからです。
- 8 心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るからです。
- 9 平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるからです。
- 10 義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです。
- 11 わたしのために人々があなたがたをののしり、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせるとき、あなたがたは幸いです。
- 12 喜びなさい。大いに喜びなさい。天においてあなたがたの報いは大きいのですから。あなたがたより前にいた預言者たちを、人々は同じように迫害したのです。
- 13 あなたがたは地の塩です。もし塩が塩気をなくしたら、何によって塩気をつけるのでしょうか。もう何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけです。
- 14 あなたがたは世の光です。山の上にある町は隠れることができません。
- 15 また、明かりをともして升の下に置いたりしません。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいるすべての人を照らします。
- 16 このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせなさい。人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようになるためです。
- 17 わたしが律法や預言者を廃棄するために来た、と思ってはなりません。廃棄するためではなく成就するために来たのです。
- 18 まことに、あなたがたに言います。天地が消え去るまで、律法の一点一画も決して消え去ることはありません。すべてが実現します。
- 19 ですから、これらの戒めの最も小さいものを一つでも破り、また破るように人々に教える者は、天の御国で最も小さい者と呼ばれます。しかし、それを行い、また行うように教える者は天の御国で偉大な者と呼ばれます。
- 20 わたしはあなたがたに言います。あなたがたの義が、律法学者やパリサイ人の義にまさっていなければ、あなたがたは決して天の御国に入れません。
- 21 昔の人々に対して、『殺してはならない。人を殺す者はさばきを受けなければならない』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。
- 22 しかし、わたしはあなたがたに言います。兄弟に対して怒る者は、だれでもさばきを受けなければならない。兄弟に『ばか者』と言う者は最高法院でさばかれます。『愚か者』と言う者

は火の燃えるゲヘナに投げ込まれます。

- 23** ですから、祭壇の上にささげ物を献げようとしているときに、兄弟が自分を恨んでいることを思い出したなら、
- 24** ささげ物はそこに、祭壇の前に置き、行って、まずあなたの兄弟と仲直りをしなさい。それから戻って、そのささげ物を献げなさい。
- 25** あなたを訴える人とは、一緒に行く途中で早く和解しなさい。そうでないと、訴える人はあなたを裁判官に引き渡し、裁判官は下役に引き渡し、あなたは牢に投げ込まれることになりま
- 26** す。まことに、あなたに言います。最後の一コドラントを支払うまで、そこから決して出ることはできません。
- 27** 『姦淫してはならない』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。
- 28** しかし、わたしはあなたがたに言います。情欲を抱いて女を見る者はだれでも、心の中ですでに姦淫を犯したのです。
- 29** もし右の目があなたをつまづかせるなら、えぐり出して捨てなさい。からだの一部を失っても、全身がゲヘナに投げ込まれないほうがよいのです。
- 30** もし右の手があなたをつまづかせるなら、切って捨てなさい。からだの一部を失っても、全身がゲヘナに落ちないほうがよいのです。
- 31** また『妻を離縁する者は離縁状を与えよ』と言われていました。
- 32** しかし、わたしはあなたがたに言います。だれでも、淫らな行い以外の理由で自分の妻を離縁する者は、妻に姦淫を犯させることになります。また、離縁された女と結婚すれば、姦淫を犯すことになるのです。
- 33** また、昔の人々に対して、『偽って誓ってはならない。あなたが誓ったことを主に果たせ』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。
- 34** しかし、わたしはあなたがたに言います。決して誓ってはいけません。天にかけて誓ってはいけません。そこは神の御座だからです。
- 35** 地にかけて誓ってもいけません。そこは神の足台だからです。エルサレムにかけて誓ってもいけません。そこは偉大な王の都だからです。
- 36** 自分の頭にかけて誓ってもいけません。あなたは髪の毛一本さえ白くも黒くもできないのですから。
- 37** あなたがたの言うことばは、『はい』は『はい』、『いいえ』は『いいえ』としなさい。それ以上のことは悪い者から出ているのです。
- 38** 『目には目を、歯には歯を』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。
- 39** しかし、わたしはあなたがたに言います。悪い者に手向かってはいけません。あなたの右の頬を打つ者には左の頬も向けなさい。
- 40** あなたを告訴して下着を取ろうとする者には、上着も取らせなさい。
- 41** あなたに一ミリオン行くように強いる者がいれば、一緒に二ミリオン行きなさい。
- 42** 求める者には与えなさい。借りようとする者に背を向けてはいけません。
- 43** 『あなたの隣人を愛し、あなたの敵を憎め』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。

- 44 しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。
- 45 天におられるあなたがたの父の子どもになるためです。父はご自分の太陽を悪人にも善人にも昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからです。
- 46 自分を愛してくれる人を愛したとしても、あなたがたに何の報いがあるのでしょうか。取税人でも同じことをしているではありませんか。
- 47 また、自分の兄弟にだけあいさつしたとしても、どれだけまさったことをしたことになるのでしょうか。異邦人でも同じことをしているではありませんか。
- 48 ですから、あなたがたの天の父が完全であるように、完全でありなさい。

第6章

- 1 人に見せるために人前で善行をしないように気をつけなさい。そうでないと、天におられるあなたがたの父から報いを受けられません。
- 2 ですから、施しをするとき、偽善者たちが人にほめてもらおうと会堂や通りでするように、自分の前でラッパを吹いてはいけません。まことに、あなたがたに言います。彼らはすでに自分の報いを受けているのです。
- 3 あなたが施しをするときは、右の手がしていることを左の手に知られないようにしなさい。
- 4 あなたの施しが、隠れたところにあるようにするためです。そうすれば、隠れたところで見られるあなたの父が、あなたに報いてくださいます。
- 5 また、祈るとき偽善者たちのようであってはいけません。彼らは人々に見えるように、会堂や大通りの角に立って祈るのが好きだからです。まことに、あなたがたに言います。彼らはすでに自分の報いを受けているのです。
- 6 あなたが祈るときは、家の奥の自分の部屋に入りなさい。そして戸を閉めて、隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れたところで見られるあなたの父が、あなたに報いてくださいます。
- 7 また、祈るとき、異邦人のように、同じことばをただ繰り返してはいけません。彼らは、ことば数が多いことで聞かれると思っているのです。
- 8 ですから、彼らと同じようにしてはいけません。あなたがたの父は、あなたがたが求める前から、あなたがたに必要なものを知っておられるのです。
- 9 ですから、あなたがたはこう祈りなさい。『天にいます私たちの父よ。御名が聖なるものとされますように。』
- 10 御国が来ますように。みこころが天で行われるように、地でも行われますように。
- 11 私たちの日ごとの糧を、今日もお与えください。
- 12 私たちの負い目をお赦しください。私たちも、私たちに負い目のある人たちを赦します。
- 13 私たちを試みにあわせしないで、悪からお救いください。』
- 14 もし人の過ちを赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたを赦してくださいます。
- 15 しかし、人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの過ちをお赦しになりません。
- 16 あなたがたが断食をするときには、偽善者たちのように暗い顔をしてはいけません。彼らは断食をしていることが人に見えるように、顔をやつれさせるのです。まことに、あなたがたに言

います。彼らはすでに自分の報いを受けているのです。

- 17 断食するときは頭に油を塗り、顔を洗いなさい。
- 18 それは、断食していることが、人にではなく、隠れたところにおられるあなたの父に見えるようにするためです。そうすれば、隠れたところで見えおられるあなたの父が報いてくださいます。
- 19 自分のために、地上に宝を蓄えるのはやめなさい。そこでは虫やさびで傷物になり、盗人が壁に穴を開けて盗みます。
- 20 自分のために、天に宝を蓄えなさい。そこでは虫やさびで傷物になることはなく、盗人が壁に穴を開けて盗むこともありません。
- 21 あなたの宝のあるところ、そこにあなたの心もあるのです。
- 22 からだの明かりは目です。ですから、あなたの目が健やかなら全身が明るくなりますが、
- 23 目が悪ければ全身が暗くなります。ですから、もしあなたのうちにある光が闇なら、その闇はどれほどでしょうか。
- 24 だれも二人の主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛することになるか、一方を重んじて他方を軽んじることになります。あなたがたは神と富とに仕えることはできません。
- 25 ですから、わたしはあなたがたに言います。何を食べようか何を飲もうかと、自分のいのちのことで心配したり、何を着ようかと、自分のからだのことで心配したりするのはやめなさい。いのちは食べ物以上のもの、からだは着る物以上のものではありませんか。
- 26 空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。それでも、あなたがたの天の父は養ってくださいます。あなたがたはその鳥よりも、ずっと価値があるではありませんか。
- 27 あなたがたのうちだれが、心配したからといって、少しでも自分のいのちを延ばすことができるでしょうか。
- 28 なぜ着る物のことで心配するのですか。野の花がどうして育つのか、よく考えなさい。働きもせず、紡ぎもしません。
- 29 しかし、わたしはあなたがたに言います。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも装っていませんでした。
- 30 今日あっても明日は炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこのように装ってくださるのなら、あなたがたには、もっと良くして下さらないでしょうか。信仰の薄い人たちよ。
- 31 ですから、何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかと言って、心配しなくてよいのです。
- 32 これらのものはすべて、異邦人が切に求めているものです。あなたがたにこれらのものすべてが必要であることは、あなたがたの天の父が知っておられます。
- 33 まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。
- 34 ですから、明日のことまで心配しなくてよいのです。明日のことは明日が心配します。苦労はその日その日に十分あります。

第7章

- 1 さばいてはいけません。自分がさばかれないためです。
- 2 あなたがたは、自分がさばく、そのさばきでさばかれ、自分が量るその秤で量り与えられるのです。
- 3 あなたは、兄弟の目にあるちりは見えるのに、自分の目にある梁には、なぜ気がつかないのですか。
- 4 兄弟に向かって、『あなたの目からちりを取り除かせてください』と、どうして言うのですか。見なさい。自分の目には梁があるではありませんか。
- 5 偽善者よ、まず自分の目から梁を取り除きなさい。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目からちりを取り除くことができます。
- 6 聖なるものを犬に与えてはいけません。また、真珠を豚の前に投げてはいけません。犬や豚はそれらを足で踏みつけ、向き直って、あなたがたをかみ裂くこととなります。
- 7 求めなさい。そうすれば与えられます。探しなさい。そうすれば見出します。たたきなさい。そうすれば開かれます。
- 8 だれでも、求める者は受け、探す者は見出し、たたく者には開かれます。
- 9 あなたがたのうちのだれが、自分の子がパンを求めているのに石を与えるでしょうか。
- 10 魚を求めているのに、蛇を与えるでしょうか。
- 11 このように、あなたがたは悪い者であっても、自分の子どもたちには良いものを与えることを知っているのです。それならなおのこと、天におられるあなたがたの父は、ご自分に求める者たちに、良いものを与えてくださらないことがあるでしょうか。
- 12 ですから、人からしてもらいたいことは何でも、あなたがたも同じように人にしなさい。これが律法と預言者です。
- 13 狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広く、そこから入って行く者が多いのです。
- 14 いのちに至る門はなんと狭く、その道もなんと細いことでしょう。そして、それを見出す者はわずかです。
- 15 偽預言者たちに用心しなさい。彼らは羊の衣を着てあなたがたのところに来るが、内側は貪欲な狼です。
- 16 あなたがたは彼らを実によって見分けることとなります。茨からぶどうが、あざみからいちじくが採れるでしょうか。
- 17 良い木はみな良い実を結び、悪い木は悪い実を結びます。
- 18 良い木が悪い実を結ぶことはできず、また、悪い木が良い実を結ぶこともできません。
- 19 良い実を結ばない木はみな切り倒されて、火に投げ込まれます。
- 20 こういうわけで、あなたがたは彼らを実によって見分けることになるのです。
- 21 わたしに向かって『主よ、主よ』と言う者がみな天の御国に入るのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行う者が入るのです。
- 22 その日には多くの者がわたしに言うでしょう。『主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言し、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって多くの奇跡を行ったではありませんか。』

- 23 しかし、わたしはそのとき、彼らにはっきりと言います。『わたしはおまえたちを全く知らない。不法を行う者たち、わたしから離れて行け。』
- 24 ですから、わたしのこれらのことばを聞いて、それを行う者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人にたとえることができます。
- 25 雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家を襲っても、家は倒れませんでした。岩の上に土台が据えられていたからです。
- 26 また、わたしのこれらのことばを聞いて、それを行わない者はみな、砂の上に自分の家を建てた愚かな人にたとえることができます。
- 27 雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまいました。しかもその倒れ方はひどいものでした。」
- 28 イエスがこれらのことばを語り終えられると、群衆はその教えに驚いた。
- 29 イエスが、彼らの律法学者たちのようにではなく、権威ある者として教えられたからである。

第8章

- 1 イエスが山から下りて来られると、大勢の群衆がイエスに従った。
- 2 すると見よ。ツアラアトに冒された人がみもとに来て、イエスに向かってひれ伏し、「主よ、お心一つで私をきよくすることがおできになります」と言った。
- 3 イエスは手を伸ばして彼にさわり、「わたしの心だ。きよくなれ」と言われた。すると、すぐに彼のツアラアトはきよめられた。
- 4 イエスは彼に言われた。「だれにも話さないように気をつけなさい。ただ行って自分を祭司に見せなさい。そして、人々への証しのために、モーセが命じたささげ物をしなさい。」
- 5 イエスがカペナウムに入られると、一人の百人隊長がみもとに来て懇願し、
- 6 「主よ、私のしもべが中風のために家で寝込んでいます。ひどく苦しんでいます」と言った。
- 7 イエスは彼に「行って彼を治そう」と言われた。
- 8 しかし、百人隊長は答えた。「主よ、あなた様を私の屋根の下にお入れする資格は、私にはありません。ただ、おことばを下さい。そうすれば私のしもべは癒やされます。
- 9 と申しますのは、私も権威の下にある者だからです。私自身の下にも兵士たちがいて、その一人に『行け』と言えば行きますし、別の者に『来い』と言えば来ます。また、しもべに『これをしろ』と言えば、そのようにします。」
- 10 イエスはこれを聞いて驚き、ついて来た人たちに言われた。「まことに、あなたがたに言います。わたしはイスラエルのうちのだれにも、これほどの信仰を見たことがありません。
- 11 あなたがたに言いますが、多くの人が東からも西からも来て、天の御国でアブラハム、イサク、ヤコブと一緒に食卓に着きます。
- 12 しかし、御国の子らは外の暗闇に放り出されます。そこで泣いて歯ぎしりするのです。」
- 13 それからイエスは百人隊長に言われた。「行きなさい。あなたの信じたとおりになるように。」すると、ちょうどそのとき、そのしもべは癒やされた。
- 14 それからイエスはペテロの家に入り、彼の姑が熱を出して寝込んでいるのをご覧になった。
- 15 イエスは彼女の手に触れられた。すると熱がひき、彼女は起きてイエスをもてなした。

- 16 夕方になると、人々は悪霊につかれた人を、大勢みもとに連れて来た。イエスはことばをもって悪霊どもを追い出し、病気の人々をみな癒やされた。
- 17 これは、預言者イザヤを通して語られたことが成就するためであった。「彼は私たちのわずらいを担い、私たちの病を負った。」
- 18 さて、イエスは群衆が自分の周りを見ているのを見て、弟子たちに向こう岸に渡るように命じられた。
- 19 そこに一人の律法学者が来て言った。「先生。あなたがどこに行かれても、私はついて行きます。」
- 20 イエスは彼に言われた。「狐には穴があり、空の鳥には巣があるが、人の子には枕するところもありません。」
- 21 また、別の一人の弟子がイエスに言った。「主よ。まず行って父を葬ることをお許してください。」
- 22 ところが、イエスは彼に言われた。「わたしに従って来なさい。死人たちに、彼ら自身の死人たちを葬らせなさい。」
- 23 それからイエスが舟に乗られると、弟子たちも従った。
- 24 すると見よ。湖は大荒れとなり、舟は大波をかぶった。ところがイエスは眠っておられた。
- 25 弟子たちは近寄ってイエスを起こして、「主よ、助けてください。私たちは死んでしまいます」と言った。
- 26 イエスは言われた。「どうして怖がるのか、信仰の薄い者たち。」それから起き上がり、風と湖を叱りつけられた。すると、すっかり凪になった。
- 27 人々は驚いて言った。「風や湖までが言うことを聞くとはいったいこの方はどういう方なのだろうか。」
- 28 さて、イエスが向こう岸のガダラ人の地にお着きになると、悪霊につかれた人が二人、墓場から出て来てイエスを迎えた。彼らはひどく狂暴で、だれもその道を通れないほどであった。
- 29 すると見よ、彼らが叫んだ。「神の子よ、私たちと何の関係があるのですか。まだその時ではないのに、もう私たちを苦しめに来たのですか。」
- 30 そこから離れたところに、多くの豚の群れが飼われていた。
- 31 悪霊どもはイエスに懇願して、「私たちを追い出そうとされるのでしたら、豚の群れの中に送ってください」と言った。
- 32 イエスは彼らに「行け」と言われた。それで、悪霊どもは出て行って豚に入った。すると見よ。その群れ全体が崖を下って湖になだれ込み、水におぼれて死んだ。
- 33 飼っていた人たちは逃げ出して町に行き、悪霊につかれていた人たちのことなどを残らず知らせた。
- 34 すると見よ、町中の人々がイエスに会いに出て来た。そして、イエスを見ると、その地方から立ち去ってほしいと懇願した。

第9章

- 1 イエスは舟に乗って湖を渡り、自分の町に帰られた。

- 2 すると見よ。人々が中風の人を床に寝かせたまま、みもとに運んで来た。イエスは彼らの信仰を見て、中風の人に「子よ、しっかりしなさい。あなたの罪は赦された」と言われた。
- 3 すると、律法学者たちが何人かそこにいて、心の中で「この人は神を冒瀆している」と言った。
- 4 イエスは彼らの思いを知って言われた。「なぜ心の中で悪いことを考えているのか。」
- 5 『あなたの罪は赦された』と言うのと、『起きて歩け』と言うのと、どちらが易しいか。
- 6 しかし、人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを、あなたがたが知るために―。」そう言って、それから中風の人に「起きて寝床を担ぎ、家に帰りなさい」と言われた。
- 7 すると彼は起き上がり、家に帰った。
- 8 群衆はそれを見て恐ろしくなり、このような権威を人にお与えになった神をあがめた。
- 9 イエスはそこから進んで行き、マタイという人が収税所に座っているのを見て、「わたしについて来なさい」と言われた。すると、彼は立ち上がってイエスに従った。
- 10 イエスが家の中で食事の席に着いておられたとき、見よ、取税人たちや罪人たちが大勢来て、イエスや弟子たちとともに食卓に着いていた。
- 11 これを見たパリサイ人たちは弟子たちに、「なぜあなたがたの先生は、取税人たちや罪人たちと一緒に食事をするのですか」と言った。
- 12 イエスはこれを聞いて言われた。「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人です。」
- 13 『わたしが喜びとするのは真実の愛。いけにえではない』とはどういう意味か、行って学びなさい。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためです。」
- 14 それから、ヨハネの弟子たちがイエスのところに来て、「私たちとパリサイ人はたびたび断食をしているのに、なぜあなたの弟子たちは断食をしないのですか」と言った。
- 15 イエスは彼らに言われた。「花婿に付き添う友人たちは、花婿と一緒にいる間、悲しむことができるでしょうか。しかし、彼らから花婿が取り去られる日が来ます。そのときには断食をします。」
- 16 だれも、真新しい布切れで古い衣に継ぎを当てたりはしません。そんな継ぎ切れは衣を引き裂き、破れがもっとひどくなるからです。
- 17 また、人は新しいぶどう酒を古い皮袋に入れたりはしません。そんなことをすれば皮袋は裂け、ぶどう酒が流れ出て、皮袋もだめになります。新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れます。そうすれば両方とも保てます。」
- 18 イエスがこれらのことを話しておられると、見よ、一人の会堂司が来てひれ伏し、「私の娘が今、死にました。でも、おいでになって娘の上に手を置いてやってください。そうすれば娘は生き返ります」と言った。
- 19 そこでイエスは立ち上がり、彼について行かれた。弟子たちも従った。
- 20 すると見よ。十二年の間長血をわずらっている女の人が、イエスのうしろから近づいて、その衣の房に触れた。
- 21 「この方の衣に触れさえすれば、私は救われる」と心のうちで考えたからである。
- 22 イエスは振り向いて、彼女を見て言われた。「娘よ、しっかりしなさい。あなたの信仰があなたを救ったのです。」すると、その時から彼女は癒やされた。
- 23 イエスは会堂司の家に着き、笛吹く者たちや騒いでいる群衆を見て、

- 24 「出て行きなさい。その少女は死んだのではなく、眠っているのです」と言われた。人々はイエスをあざ笑った。
- 25 群衆が外に出されると、イエスは中に入り、少女の手を取られた。すると少女は起き上がった。
- 26 この話はその地方全体に広まった。
- 27 イエスがそこから進んで行くと、目の見えない二人の人が、「ダビデの子よ、私たちをあわれんでください」と叫びながらついて来た。
- 28 イエスが家に入られると、その人たちがみもとに来た。イエスが、「わたしにそれができると信じるのか」と言われると、彼らは「はい、主よ」と言った。
- 29 そこでイエスは彼らの目にさわって、「あなたがたの信仰のとおりになれ」と言われた。
- 30 すると、彼らの目が開いた。イエスは彼らに厳しく命じて、「だれにも知られないように気をつけなさい」と言われた。
- 31 しかし、彼らは出て行って、その地方全体にイエスのことを言い広めた。
- 32 その人たちが出て行くと、見よ、人々はイエスのもとに、悪霊につかれて口のきけない人を連れて来た。
- 33 悪霊が追い出されると、口のきけない人がものを言うようになった。群衆は驚いて、「こんなことはイスラエルで、いまだかつて起こったことがない」と言った。
- 34 しかし、パリサイ人たちは、「彼は悪霊どものかしらによって悪霊どもを追い出しているのだ」と言った。
- 35 それからイエスは、すべての町や村を巡って、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病気、あらゆるわずらいを癒やされた。
- 36 また、群衆を見て深くあわれまれた。彼らが羊飼いのいない羊の群れのように、弱り果てて倒れていたからである。
- 37 そこでイエスは弟子たちに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。
- 38 だから、収穫の主に、ご自分の収穫のために働き手を送ってくださるよう祈りなさい。」

第10章

- 1 イエスは十二弟子を呼んで、汚れた霊どもを制する権威をお授けになった。霊どもを追い出し、あらゆる病気、あらゆるわずらいを癒やすためであった。
- 2 十二使徒の名は次のとおりである。まず、ペテロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレ、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネ、
- 3 ピリポとバルトロマイ、トマスと取税人マタイ、アルパヨの子ヤコブとタダイ、
- 4 熱心党のシモンと、イエスを裏切ったイスカリオテのユダである。
- 5 イエスはこの十二人を遣わす際、彼らにこう命じられた。「異邦人の道に行ってははいけません。また、サマリア人の町に入ってははいけません。
- 6 むしろ、イスラエルの家々の失われた羊たちのところに行きなさい。
- 7 行って、『天の御国が近づいた』と宣べ伝えなさい。
- 8 病人を癒やし、死人を生き返らせ、ツアラアトに冒された者をきよめ、悪霊どもを追い出しなさい。あなたがたはただで受けたのですから、ただで与えなさい。

- 9 胴巻に金貨も銀貨も銅貨も入れて行ってはいけません。
- 10 袋も二枚目の下着も履き物も杖も持たずに、旅に出なさい。働く者が食べ物を得るのは当然だからです。
- 11 どの町や村に入っても、そこでだれがふさわしい人かをよく調べ、そこを立ち去るまで、その人のところにとどまりなさい。
- 12 その家に入るときには、平安を祈るあいさつをしなさい。
- 13 その家がそれにふさわしければ、あなたがたの祈る平安がその家に来るようにし、ふさわしくなければ、その平安があなたがたのところに戻って来るようにしなさい。
- 14 だれかがあなたがたを受け入れず、あなたがたのことばに耳を傾けないなら、その家や町を出て行くときに足のちりを払い落としなさい。
- 15 まことに、あなたがたに言います。さばきの日には、ソドムとゴモラの地のほうが、その町よりもさばきに耐えやすいのです。
- 16 いいですか。わたしは狼の中に羊を送り出すようにして、あなたがたを遣わします。ですから、蛇のように賢く、鳩のように素直でありなさい。
- 17 人々には用心しなさい。彼らはあなたがたを地方法院に引き渡し、会堂でむち打ちます。
- 18 また、あなたがたは、わたしのために総督たちや王たちの前に連れて行かれ、彼らと異邦人に証しをすることになります。
- 19 人々があなたがたを引き渡したとき、何をどう話そうかと心配しなくてもよいのです。話すことは、そのとき与えられるからです。
- 20 話すのはあなたがたではなく、あなたがたのうちにあって話される、あなたがたの父の御霊です。
- 21 兄弟は兄弟を、父は子を死に渡し、子どもたちは両親に逆らって立ち、死に至らせます。
- 22 また、わたしの名のために、あなたがたはすべての人に憎まれます。しかし、最後まで耐え忍ぶ人は救われます。
- 23 一つの町で人々があなたがたを迫害するなら、別の町へ逃げなさい。まことに、あなたがたに言います。人の子が来るときまでに、あなたがたがイスラエルの町々を巡り終えることは、決してありません。
- 24 弟子は師以上の者ではなく、しもべも主人以上の者ではありません。
- 25 弟子は師のように、しもべは主人のようになれば十分です。家の主人がベルゼブルと呼ばれるくらいなら、ましてその家の者たちは、どれほどひどい呼び方をされるでしょうか。
- 26 ですから彼らを恐れてはいけません。おおわれているもので現されないものはなく、隠されているもので知られずにすむものはないからです。
- 27 わたしが暗闇であなたがたに言うことを、明るみで言いなさい。あなたがたが耳もとで聞いたことを、屋上で言い広めなさい。
- 28 からだを殺しても、たましいを殺せない者たちを恐れてはいけません。むしろ、たましいもからだもゲヘナで滅ぼすことができる方を恐れなさい。
- 29 二羽の雀は一アサリオンで売られているではありませんか。そんな雀の一羽でさえ、あなたがたの父の許しなしに地に落ちることはありません。
- 30 あなたがたの髪の毛さえも、すべて数えられています。
- 31 ですから恐れてはいけません。あなたがたは多くの雀よりも価値があるのです。

- 32 ですから、だれでも人々の前でわたしを認めるなら、わたしも、天におられるわたしの父の前でその人を認めます。
- 33 しかし、人々の前でわたしを知らないと言う者は、わたしも、天におられるわたしの父の前で、その人を知らないと言います。
- 34 わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思っではいけません。わたしは、平和ではなく剣をもたらすために来ました。
- 35 わたしは、人をその父に、娘をその母に、嫁をその姑に逆らわせるために来たのです。
- 36 そのようにして家の者たちがその人の敵となるのです。
- 37 わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。わたしよりも息子や娘を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。
- 38 自分の十字架を負ってわたしに従って来ない者は、わたしにふさわしい者ではありません。
- 39 自分のいのちを得る者はそれを失い、わたしのために自分のいのちを失う者は、それを得るのです。
- 40 あなたがたを受け入れる人は、わたしを受け入れるのです。また、わたしを受け入れる人は、わたしを遣わされた方を受け入れるのです。
- 41 預言者を預言者だからということで受け入れる人は、預言者の受ける報いを受けます。また、義人を義人だからということで受け入れる人は、義人の受ける報いを受けます。
- 42 まことに、あなたがたに言います。わたしの弟子だからということで、この小さい者たちの一人に一杯の冷たい水でも飲ませる人は、決して報いを失うことはありません。」

第11章

- 1 イエスは十二弟子に対する指示を終えると、町々で教え、宣べ伝えるために、そこを立ち去られた。
- 2 さて、牢獄でキリストのみわざについて聞いたヨハネは、自分の弟子たちを通じて
- 3 イエスにこう言い送った。「おいでになるはずの方はあなたですか。それとも、別の方を待つべきでしょうか。」
- 4 イエスは彼らに答えられた。「あなたがたは行って、自分たちが見たり聞いたりしていることをヨハネに伝えなさい。
- 5 目の見えない者たちが見、足の不自由な者たちが歩き、ツアラアトに冒された者たちがきよめられ、耳の聞こえない者たちが聞き、死人たちが生き返り、貧しい者たちに福音が伝えられています。
- 6 だれでも、わたしにつまずかない者は幸いです。」
- 7 この人たちが行ってしまうと、イエスはヨハネについて群衆に話し始められた。「あなたがたは何を見に荒野に出て行ったのですか。風に揺れる葦ですか。
- 8 そうでなければ、何を見に行ったのですか。柔らかな衣をまとった人ですか。ご覧なさい。柔らかな衣を着た人なら王の宮殿にいます。
- 9 そうでなければ、何を見に行ったのですか。預言者ですか。そうです。わたしはあなたがたに言います。預言者よりもすぐれた者を見に行ったのです。

- 10 この人こそ、『見よ、わたしはわたしの使いを あなたの前に遣わす。彼は、あなたの前にあなたの道を備える』と書かれているその人です。
- 11 まことに、あなたがたに言います。女から生まれた者の中で、バプテスマのヨハネより偉大な者は現れませんでした。しかし、天の御国で一番小さい者でさえ、彼より偉大です。
- 12 バプテスマのヨハネの日から今に至るまで、天の御国は激しく攻められています。そして、激しく攻める者たちがそれを奪い取っています。
- 13 すべての預言者たちと律法が預言したのは、ヨハネの時まででした。
- 14 あなたがたに受け入れる思いがあるなら、この人こそ来たるべきエリヤなのです。
- 15 耳のある者は聞きなさい。
- 16 この時代は何にたとえたらよいでしょうか。広場に座って、ほかの子どもたちにこう呼びかけている子どもたちのようです。
- 17 『笛を吹いてあげたのに 君たちは踊らなかった。 弔いの歌を歌ってあげたのに 胸をたたいて悲しまなかった。』
- 18 ヨハネが来て、食べもせず飲みもしないでいると、『この人は悪霊につかわれている』と人々は言い、
- 19 人の子が来て食べたり飲んだりしていると、『見ろ、大食いの大酒飲み、取税人や罪人の仲間だ』と言うのです。しかし、知恵が正しいことはその行いが証明します。」
- 20 それからイエスは、ご自分が力あるわざを数多く行った町々を責め始められた。彼らが悔い改めなかったからである。
- 21 「ああ、コラジン。ああ、ベツサイダ。おまえたちの間で行われた力あるわざが、ツロとシドンで行われていたら、彼らはとうの昔に粗布をまとい、灰をかぶって悔い改めていたことだろう。
- 22 おまえたちに言う。さばきの日には、ツロとシドンのほうが、おまえたちよりもさばきに耐えやすいのだ。
- 23 カペナウム、おまえが天に上げられることがあるだろうか。よみにまで落とされるのだ。おまえのうちで行われた力あるわざがソドムで行われていたら、ソドムは今日まで残っていたことだろう。
- 24 おまえたちに言う。さばきの日には、ソドムの地のほうが、おまえよりもさばきに耐えやすいのだ。」
- 25 そのとき、イエスはこう言われた。「天地の主であられる父よ、あなたをほめたたえます。あなたはこれらのことを、知恵ある者や賢い者には隠して、幼子たちに現してくださいました。
- 26 そうです、父よ、これはみこころにかなったことでした。
- 27 すべてのことが、わたしの父からわたしに渡されています。父のほかに子を知っている者はなく、子と、子が父を現そうと心に定めた者のほかに、父を知っている者はだれもいません。
- 28 すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。
- 29 わたしは心が柔和でへりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ます。
- 30 わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」

第12章

- 1 そのころ、イエスは安息日に麦畑を通られた。弟子たちは空腹だったので、穂を摘んで食べ始めた。
- 2 するとパリサイ人たちがそれを見て、イエスに言った。「ご覧なさい。あなたの弟子たちが、安息日にはしてはならないことをしています。」
- 3 しかし、イエスは言われた。「ダビデと供の者たちが空腹になったときに、ダビデが何をしたか、
- 4 どのようにして、神の家に入り、祭司以外は自分も供の者たちも食べてはならない、臨在のパンを食べたか、読んだことがないのですか。
- 5 また、安息日に宮にいる祭司たちは安息日を汚しても咎を免れる、ということを経法で読んだことがないのですか。
- 6 あなたがたに言いますが、ここに宮よりも大いなるものがあります。
- 7 『わたしが喜びとするのは真実の愛。いけにえではない』とはどういう意味かを知っていたら、あなたがたは、咎のない者たちを不義に定めはしなかったでしょう。
- 8 人の子は安息日の主です。」
- 9 イエスはそこを去って、彼らの会堂に入られた。
- 10 すると見よ、片手の萎えた人がいた。そこで彼らはイエスに「安息日に癒やすのは律法にかなっていますか」と質問した。イエスを訴えるためであった。
- 11 イエスは彼らに言われた。「あなたがたのうちのだれかが羊を一匹持っていて、もしその羊が安息日に穴に落ちたら、それをつかんで引き上げてやらないでしょうか。
- 12 人間は羊よりはるかに価値があります。それなら、安息日に良いことをするのは律法にかなっています。」
- 13 それからイエスはその人に「手を伸ばしなさい」と言われた。彼が手を伸ばすと、手は元どおりになり、もう一方の手のように良くなった。
- 14 パリサイ人たちは出て行って、どうやってイエスを殺そうかと相談し始めた。
- 15 イエスはそれを知って、そこを立ち去られた。すると大勢の群衆がついて来たので、彼らをみな癒やされた。
- 16 そして、ご自分のことを人々に知らせないように、彼らを戒められた。
- 17 これは、預言者イザヤを通して語られたことが成就するためであった。
- 18 「見よ。わたしが選んだわたしのしもべ、わたしの心が喜ぶ、わたしの愛する者。わたしは彼の上にわたしの霊を授け、彼は異邦人にさばきを告げる。
- 19 彼は言い争わず、叫ばず、通りでその声を聞く者もない。
- 20 傷んだ葦を折ることもなく、くすぶる灯芯を消すこともない。さばきを勝利に導くまで。
- 21 異邦人は彼の名に望みをかける。」
- 22 そのとき、悪霊につかれて目が見えず、口もきけない人が連れて来られた。イエスが癒やされたので、その人はものを言い、目も見えるようになった。
- 23 群衆はみな驚いて言った。「もしかすると、この人がダビデの子なのではないだろうか。」
- 24 これを聞いたパリサイ人たちは言った。「この人が悪霊どもを追い出しているのは、ただ悪霊どものかしらベルゼブルによることだ。」

- 25 イエスは彼らの思いを知って言われた。「どんな国でも分裂して争えば荒れすたれ、どんな町でも家でも分裂して争えば立ち行きません。
- 26 もし、サタンがサタンを追い出しているのなら、仲間割れしたことになります。それなら、どのようにしてその国は立ち行くのですか。
- 27 また、もしわたしが、ベルゼブルによって悪霊どもを追い出しているとしたら、あなたがたの子らが追い出しているのは、だれによってなのですか。そういうわけで、あなたがたの子らが、あなたがたをさばく者となります。
- 28 しかし、わたしが神の御霊によって悪霊どもを追い出しているのなら、もう神の国はあなたがたのところに来ているのです。
- 29 まず強い者を縛り上げるのでなければ、強い者の家に入って家財を奪い取ることが、どうしてできるでしょうか。縛り上げれば、その家を略奪できます。
- 30 わたしに味方しない者はわたしに敵対し、わたしとともに集めない者は散らしているのです。
- 31 ですから、わたしはあなたがたに言います。人はどんな罪も冒瀆も赦していただけますが、御霊に対する冒瀆は赦されません。
- 32 また、人の子に逆らうことばを口にする者でも赦されます。しかし、聖霊に逆らうことを言う者は、この世でも次に来る世でも赦されません。
- 33 木を良いとし、その実も良いとするか、木を悪いとし、その実も悪いとするか、どちらかです。木の良し悪しはその実によって分かります。
- 34 まむしの子孫たち、おまえたち悪い者に、どうして良いことが言えますか。心に満ちていることを口が話すのです。
- 35 良い人は良い倉から良い物を取り出し、悪い者は悪い倉から悪い物を取り出します。
- 36 わたしはあなたがたに言います。人は、口にするあらゆる無益なことばについて、さばきの日に申し開きをしなければなりません。
- 37 あなたは自分のことばによって義とされ、また、自分のことばによって不義に定められるのです。」
- 38 そのとき、律法学者、パリサイ人のうちの何人かがイエスに「先生、あなたからしるしを見せていただきたい」と言った。
- 39 しかし、イエスは答えられた。「悪い、姦淫の時代はしるしを求めますが、しるしは与えられません。ただし預言者ヨナのしるしは別です。
- 40 ヨナが三日三晩、大魚の腹の中にいたように、人の子も三日三晩、地の中にいるからです。
- 41 ニネベの人々が、さばきのときにこの時代の人々とともに立って、この時代の人々を罪ありとします。ニネベの人々はヨナの説教で悔い改めたからです。しかし見なさい。ここにヨナにまさるものがあります。
- 42 南の女王が、さばきのときにこの時代の人々とともに立って、この時代の人々を罪ありとします。彼女はソロモンの知恵を聞くために地の果てから来たからです。しかし見なさい。ここにソロモンにまさるものがあります。
- 43 汚れた霊は人から出て行くと、水のない地をさまよって休み場を探します。でも見つからず、
- 44 『出て来た自分の家に帰ろう』と言います。帰って見ると、家は空いていて、掃除されてきちんと片付いています。

- 45 そこで出かけて行って、自分よりも悪い、七つのほかの霊を連れて来て、入り込んでそこに住みつきます。そうすると、その人の最後の状態は初めよりも悪くなるのです。この悪い時代にも、そのようなことが起こります。」
- 46 イエスがまだ群衆に話しておられるとき、見よ、イエスの母と兄弟たちがイエスに話をしようとして、外に立っていた。
- 47 ある人がイエスに「ご覧ください。母上と兄弟方が、お話ししようと外に立っておられます」と言った。
- 48 イエスはそう言っている人に答えて、「わたしの母とはだれでしょうか。わたしの兄弟たちとはだれでしょうか」と言われた。
- 49 それから、イエスは弟子たちの方に手を伸ばして言われた。「見なさい。わたしの母、わたしの兄弟たちです。
- 50 だれでも天におられるわたしの父のみこころを行うなら、その人こそわたしの兄弟、姉妹、母なのです。」

第13章

- 1 その日、イエスは家を出て、湖のほとりに座っておられた。
- 2 すると大勢の群衆がみもとに集まって来たので、イエスは舟に乗って腰を下ろされた。群衆はみな岸辺に立っていた。
- 3 イエスは彼らに、多くのことをたとえで語られた。「見よ。種を蒔く人が種蒔きに出かけた。
- 4 蒔いていると、種がいくつか道端に落ちた。すると鳥が来て食べてしまった。
- 5 また、別の種は土の薄い岩地に落ちた。土が深くなかったので、すぐに芽を出した。
- 6 しかし、日が昇ると焼けて、根がないために枯れてしまった。
- 7 また、別の種は茨の間に落ちたが、茨が伸びてふさいでしまった。
- 8 また、別の種は良い地に落ちて実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍になった。
- 9 耳のある者は聞きなさい。」
- 10 すると、弟子たちが近寄って来て、イエスに「なぜ、彼らにたとえでお話しになるのですか」と言った。
- 11 イエスは答えられた。「あなたがたには天の御国の奥義を知ることが許されていますが、あの人たちには許されていません。
- 12 持っている人は与えられてもっと豊かになり、持っていない人は持っているものまで取り上げられるのです。
- 13 わたしが彼らにたとえで話すのは、彼らが見てはいるが見ず、聞いてはいるが聞かず、悟ることもしないからです。
- 14 こうしてイザヤの告げた預言が、彼らにおいて実現したのです。『あなたがたは聞くには聞くが、決して悟ることはない。見るには見るが、決して知ることはない。』
- 15 この民の心は鈍くなり、耳は遠くなり、目は閉じているからである。彼らがその目で見ること、耳で聞くことも、心で悟ることも、立ち返ることもないように。そして、わたしが癒やすこともないように。』

- 16 しかし、あなたがたの目は見ているから幸いです。また、あなたがたの耳は聞いているから幸いです。
- 17 まことに、あなたがたに言います。多くの預言者や義人たちが、あなたがたが見ているものを見たいと切に願ったのに、見られず、あなたがたが聞いていることを聞きたいと切に願ったのに、聞けませんでした。
- 18 ですから、種を蒔く人のたとえを聞きなさい。
- 19 だれでも御国のことばを聞いて悟らないと、悪い者が来て、その人の心に蒔かれたものを奪います。道端に蒔かれたものとは、このような人のことです。
- 20 また岩地に蒔かれたものとは、みことばを聞くと、すぐに喜んで受け入れる人のことです。
- 21 しかし自分の中に根がなく、しばらく続くだけで、みことばのために困難や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまいます。
- 22 茨の中に蒔かれたものとは、みことばを聞くが、この世の思い煩いと富の誘惑がみことばをふさぐため、実を結ばない人のことです。
- 23 良い地に蒔かれたものとは、みことばを聞いて悟る人のことです。本当に実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結びます。」
- 24 イエスは、また別のたとえを彼らに示して言われた。「天の御国は次のようにたとえられます。ある人が自分の畑に良い種を蒔いた。
- 25 ところが人々が眠っている間に敵が来て、麦の中に毒麦を蒔いて立ち去った。
- 26 麦が芽を出し実ったとき、毒麦も現れた。
- 27 それで、しもべたちが主人のところに来て言った。『ご主人様、畑には良い麦を蒔かれたのではなかったのでしょうか。どうして毒麦が生えたのでしょうか。』
- 28 主人は言った。『敵がしたことだ。』すると、しもべたちは言った。『それでは、私たちが行って毒麦を抜き集めましょうか。』
- 29 しかし、主人は言った。『いや。毒麦を抜き集めるうちに麦も一緒に抜き取るかもしれない。
- 30 だから、収穫まで両方とも育つままにしておきなさい。収穫の時に、私は刈る者たちに、まず毒麦を集めて焼くために束にし、麦のほうは集めて私の倉に納めなさい、と言おう。』」
- 31 イエスはまた、別のたとえを彼らに示して言われた。「天の御国はからし種に似ています。人はそれを取って畑に蒔きます。
- 32 どんな種よりも小さいのですが、生長すると、どの野菜よりも大きくなって木となり、空の鳥が来て、その枝に巣を作るようになります。」
- 33 イエスはまた、別のたとえを彼らに話された。「天の御国はパン種に似ています。女の人がそれを取って三サトンの小麦粉の中に混ぜると、全体がふくらみます。」
- 34 イエスは、これらのことをみな、たとえで群衆に話された。たとえを使わずには何も話されなかった。
- 35 それは、預言者を通して語られたことが、成就するためであった。「私は口を開いて、たとえ話を、世界の基が据えられたときから隠されていることを語ろう。」
- 36 それから、イエスは群衆を解散させて家に入られた。すると弟子たちがみもとに来て、「畑の毒麦のたとえを説明してください」と言った。
- 37 イエスは答えられた。「良い種を蒔く人は人の子です。
- 38 畑は世界で、良い種は御国の子ら、毒麦は悪い者の子らです。

- 39 毒麦を蒔いた敵は悪魔であり、収穫は世の終わり、刈る者は御使いたちです。
- 40 ですから、毒麦が集められて火で焼かれるように、世の終わりにもそのようになります。
- 41 人の子は御使いたちを遣わします。彼らは、すべてのつまずきと、不法を行う者たちを御国から取り集めて、
- 42 火の燃える炉の中に投げ込みます。彼らはそこで泣いて歯ざしりするのです。
- 43 そのとき、正しい人たちは彼らの父の御国で太陽のように輝きます。耳のある者は聞きなさい。
- 44 天の御国は畑に隠された宝のようなものです。その宝を見つけた人は、それをそのまま隠しておきます。そして喜びのあまり、行って、持っている物すべてを売り払い、その畑を買います。
- 45 天の御国はまた、良い真珠を探している商人のようなものです。
- 46 高価な真珠を一つ見つけた商人は、行って、持っていた物すべてを売り払い、それを買います。
- 47 また、天の御国は、海に投げ入れてあらゆる種類の魚を集める網のようなものです。
- 48 網がいっぱいになると、人々はそれを岸に引き上げ、座って、良いものは入れ物に入れ、悪いものは外に投げ捨てます。
- 49 この世の終わりにもそのようになります。御使いたちが来て、正しい者たちの中から悪い者どもをより分け、
- 50 火の燃える炉に投げ込みます。彼らはそこで泣いて歯ざしりするのです。
- 51 あなたがたは、これらのことがみな分かりましたか。」彼らは「はい」と言った。
- 52 そこでイエスは言われた。「こういうわけで、天の御国の弟子となった学者はみな、自分の倉から新しい物と古い物を取り出す、一家の主人のようです。」
- 53 イエスはこれらのたとえを話し終えると、そこを立ち去り、
- 54 ご自分の郷里に行って、会堂で人々を教え始められた。すると、彼らは驚いて言った。「この人は、こんな知恵と奇跡を行う力をどこから得たのだろう。」
- 55 この人は大工の息子ではないか。母はマリアといい、弟たちはヤコブ、ヨセフ、シモン、ユダではないか。
- 56 妹たちもみな私たちと一緒にいるではないか。それなら、この人はこれらのものをみな、どこから得たのだろう。」
- 57 こうして彼らはイエスにつまずいた。しかし、イエスは彼らに言われた。「預言者が敬われないのは、自分の郷里、家族の間だけです。」
- 58 そして彼らの不信仰のゆえに、そこでは多くの奇跡をなさらなかった。

第14章

- 1 そのころ、領主ヘロデはイエスのうわさを聞いて、
- 2 家来たちに言った。「あれはバプテスマのヨハネだ。彼が死人の中からよみがえったのだ。だから、奇跡を行う力が彼のうちに働いているのだ。」
- 3 実は、以前このヘロデは、自分の兄弟ピリポの妻ヘロディアのことでヨハネを捕らえて縛り、牢に入れていた。

- 4 ヨハネが彼に、「あなたが彼女を自分のものにするには律法にかなっていない」と言い続けたからであった。
- 5 ヘロデはヨハネを殺したいと思ったが、民衆を恐れた。彼らがヨハネを預言者と認めていたからであった。
- 6 ところが、ヘロデの誕生祝いがあり、ヘロディアの娘が皆の前で踊りを踊ってヘロデを喜ばせた。
- 7 それで彼は娘に誓い、求める物は何でも与えると約束した。
- 8 すると、娘は母親にそそのかされて、「今ここで、バプテスマのヨハネの首を盆に載せて私に下さい」と言った。
- 9 王は心を痛めたが、自分が誓ったことであり、列席の人たちの手前もあって、与えるように命じ、
- 10 人を遣わして、牢の中でヨハネの首をはねさせた。
- 11 その首は盆に載せて運ばれ、少女に与えられたので、少女はそれを母親のところに持って行った。
- 12 それから、ヨハネの弟子たちがやって来て遺体を引き取り、葬った。そして、イエスのところに行き報告した。
- 13 それを聞くと、イエスは舟でそこを去り、自分だけで寂しいところに行かれた。群衆はそれを聞き、町々から歩いてイエスの後を追った。
- 14 イエスは舟から上がり、大勢の群衆をご覧になった。そして彼らを深くあわれんで、彼らの中の病人たちを癒やされた。
- 15 夕方になったので、弟子たちはイエスのところに来て言った。「ここは人里離れたところですし、時刻ももう遅くなっています。村に行って自分たちで食べ物を買うことができるように、群衆を解散させてください。」
- 16 しかし、イエスは言われた。「彼らが行く必要はありません。あなたがたがあの人たちに食べる物をあげなさい。」
- 17 弟子たちは言った。「ここには五つのパンと二匹の魚しかありません。」
- 18 するとイエスは「それを、ここに持って来なさい」と言われた。
- 19 そして、群衆に草の上に座るように命じられた。それからイエスは、五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げて神をほめたたえ、パンを裂いて弟子たちにお与えになったので、弟子たちは群衆に配った。
- 20 人々はみな、食べて満腹した。そして余ったパン切れを集めると、十二のかごがいっぱいになった。
- 21 食べた者は、女と子どもを除いて男五千人ほどであった。
- 22 それからすぐに、イエスは弟子たちを舟に乗り込ませて、自分より先に向こう岸に向かわせ、その間に群衆を解散させられた。
- 23 群衆を解散させてから、イエスは祈るために一人で山に登られた。夕方になっても一人でそこにおられた。
- 24 舟はすでに陸から何スタディオンも離れていて、向かい風だったので波に悩まされていた。
- 25 夜明けが近づいたころ、イエスは湖の上を歩いて弟子たちのところに来られた。

- 26 イエスが湖の上を歩いておられるのを見た弟子たちは「あれは幽霊だ」と言っておびえ、恐ろしさのあまり叫んだ。
- 27 イエスはすぐに彼らに話しかけ、「しっかりしなさい。わたしだ。恐れることはない」と言われた。
- 28 するとペテロが答えて、「主よ。あなたでしたら、私に命じて、水の上を歩いてあなたのところに行かせてください」と言った。
- 29 イエスは「来なさい」と言われた。そこでペテロは舟から出て、水の上を歩いてイエスの方に行った。
- 30 ところが強風を見て怖くなり、沈みかけたので、「主よ、助けてください」と叫んだ。
- 31 イエスはすぐに手を伸ばし、彼をつかんで言われた。「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか。」
- 32 そして二人が舟に乗り込むと、風はやんだ。
- 33 舟の中にいた弟子たちは「まことに、あなたは神の子です」と言って、イエスを礼拝した。
- 34 それから彼らは湖を渡り、ゲネサレの地に着いた。
- 35 その地の人々はイエスだと気がついて、周辺の地域にくまなく知らせた。そこで人々は病人をみなイエスのもとに連れて来て、
- 36 せめて、衣の房にでもさわらせてやってください、とイエスに懇願した。そして、さわった人たちはみな癒やされた。

第15章

- 1 そのころ、パリサイ人たちや律法学者たちが、エルサレムからイエスのところに来て言った。
- 2 「なぜ、あなたの弟子たちは長老たちの言い伝えを破るのですか。パンを食べるとき、手を洗っていません。」
- 3 そこでイエスは彼らに答えられた。「なぜ、あなたがたも、自分たちの言い伝えのために神の戒めを破るのですか。」
- 4 神は『父と母を敬え』、また『父や母をののしる者は、必ず殺されなければならない』と言われました。
- 5 それなのに、あなたがたは言っています。『だれでも父または母に向かって、私からあなたに差し上げるはずの物は神へのささげ物になります、と言う人は、
- 6 その物をもって父を敬ってはならない』と。こうしてあなたがたは、自分たちの言い伝えのために神のことばを無にしまいました。
- 7 偽善者たちよ、イザヤはあなたがたについて見事に預言しています。
- 8 『この民は口先でわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている。
- 9 彼らがわたしを礼拝しても、むなしい。人間の命令を、教えとして教えるのだから。』」
- 10 イエスは群衆を呼び寄せて言われた。「聞いて悟りなさい。
- 11 口に入る物は人を汚しません。口から出るもの、それが人を汚すのです。」
- 12 そのとき、弟子たちが近寄って来てイエスに言った。「パリサイ人たちがおことばを聞いて腹を立てたのをご存じですか。」
- 13 イエスは答えられた。「わたしの天の父が植えなかった木は、すべて根こそぎにされます。

- 14 彼らのことは放っておきなさい。彼らは盲人を案内する盲人です。もし盲人が盲人を案内すれば、二人とも穴に落ちます。」
- 15 そこでペテロがイエスに答えた。「私たちに、そのたとえを説明してください。」
- 16 イエスは言われた。「あなたがたも、まだ分からないのですか。」
- 17 口に入る物はみな、腹に入り、排泄されて外に出されることが分からないのですか。
- 18 しかし、口から出るものは心から出て来ます。それが人を汚すのです。
- 19 悪い考え、殺人、姦淫、淫らな行い、盗み、偽証、ののしりは、心から出て来るからです。
- 20 これらのものが人を汚します。しかし、洗わない手で食べることは人を汚しません。」
- 21 イエスはそこを去ってツロとシドンの地方に退かれた。
- 22 すると見よ。その地方のカナン人の女が出て来て、「主よ、ダビデの子よ。私をあわれんでください。娘が悪霊につかれて、ひどく苦しんでいます」と言って叫び続けた。
- 23 しかし、イエスは彼女に一言もお答えにならなかった。弟子たちはみもとに来て、イエスに願った。「あの女を去らせてください。後について来て叫んでいます。」
- 24 イエスは答えられた。「わたしは、イスラエルの家の失われた羊たち以外のところには、遣わされていません。」
- 25 しかし彼女は来て、イエスの前にひれ伏して言った。「主よ、私をお助けください。」
- 26 すると、イエスは答えられた。「子どもたちのパンを取り上げて、小犬に投げてやるのは良くないことです。」
- 27 しかし、彼女は言った。「主よ、そのとおりです。ただ、小犬でも主人の食卓から落ちるパン屑はいただきます。」
- 28 そのとき、イエスは彼女に答えられた。「女の方、あなたの信仰は立派です。あなたが願うとおりになるように。」彼女の娘は、すぐに癒やされた。
- 29 それから、イエスはそこを去ってガリラヤ湖のほとりに行かれた。そして山に登り、そこに座っておられた。
- 30 すると大勢の群衆が、足の不自由な人たち、目の見えない人たち、手足の曲がった人たち、口のきけない人たち、そのほか多くの人をみもとに連れて来て、イエスの足もとに置いたので、イエスは彼らを癒やされた。
- 31 群衆は、口のきけない人たちがものを言い、手足の曲がった人たちが治り、足の不自由な人たちが歩き、目の見えない人たちが見えるようになるのを見て驚いた。そしてイスラエルの神をあがめた。
- 32 イエスは弟子たちを呼んで言われた。「かわいそうに、この群衆はすでに三日間わたしとともにいて、食べる物を持っていないのです。空腹のまま帰らせたくはありません。途中で動けなくなるといけないから。」
- 33 弟子たちは言った。「この人里離れたところで、こんなに大勢の人に十分食べさせるほどたくさんパンを、どこで手に入れることができるでしょう。」
- 34 すると、イエスは彼らに言われた。「パンはいくつありますか。」彼らは言った。「七つです。それに、小さい魚が少しあります。」
- 35 そこで、イエスは群衆に地面に座るように命じられた。
- 36 そして七つのパンと魚を取り、感謝の祈りをささげてからそれを裂き、弟子たちにお与えになったので、弟子たちは群衆に配った。

- 37 人々はみな、食べて満腹した。そして余ったパン切れを集めると、七つのかごがいっぱいになった。
- 38 食べた者は、女と子どもを除いて男四千人であった。
- 39 それから、イエスは群衆を解散させて舟に乗り、マガダン地方に行かれた。

第16章

- 1 パリサイ人たちやサドカイ人たちが、イエスを試そうと近づいて来て、天からのしるしを見せてほしいと求めた。
- 2 イエスは彼らに答えられた。「夕方になると、あなたがたは『夕焼けだから晴れる』と言い、
- 3 朝には『朝焼けでどんよりしているから、今日は荒れ模様だ』と言います。空模様を見分けることを知っていながら、時のしるしを見分けることはできないのですか。
- 4 悪い、姦淫の時代はしるしを求めます。しかし、ヨナのしるしのほかに、しるしは与えられません。」こうしてイエスは彼らを残して去って行かれた。
- 5 さて、向こう岸に渡ったとき、弟子たちはパンを持って来るのを忘れてしまっていた。
- 6 イエスは彼らに言われた。「パリサイ人たちやサドカイ人たちのパン種に、くれぐれも用心しなさい。」
- 7 すると彼らは「私たちがパンを持って来なかったからだ」と言って、自分たちの間で議論を始めた。
- 8 イエスはそれに気がついて言われた。「信仰の薄い人たち。パンがないからだなどと、なぜ論じ合っているのですか。
- 9 まだ分からないのですか。五つのパンを五千人に分けて何かご集めたか、覚えていないのですか。
- 10 七つのパンを四千人に分けて何かご集めたか、覚えていないのですか。
- 11 わたしが言ったのはパンのことではないと、どうして分からないのですか。パリサイ人たちとサドカイ人たちのパン種に用心しなさい。」
- 12 そのとき彼らは、用心するようにとイエスが言われたのはパン種ではなく、パリサイ人たちやサドカイ人たちの教えであることを悟った。
- 13 さて、ピリポ・カイサリアの地方に行かれたとき、イエスは弟子たちに「人々は人の子をだれだと言っていますか」とお尋ねになった。
- 14 彼らは言った。「バプテスマのヨハネだと言う人たちも、エリヤだと言う人たちもいます。またほかの人たちはエレミヤだとか、預言者の一人だとか言っています。」
- 15 イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」
- 16 シモン・ペテロが答えた。「あなたは生ける神の子キリストです。」
- 17 すると、イエスは彼に答えられた。「バルヨナ・シモン、あなたは幸いです。このことをあなたに明らかにしたのは血肉ではなく、天におられるわたしの父です。
- 18 そこで、わたしもあなたに言います。あなたはペテロです。わたしはこの岩の上に、わたしの教会を建てます。よみの門もそれに打ち勝つことはできません。
- 19 わたしはあなたに天の御国の鍵を与えます。あなたが地上でつなぐことは天においてもつなぐれ、あなたが地上で解くことは天においても解かれます。」

- 20 そのときイエスは弟子たちに、ご自分がキリストであることをだれにも言ってはならない、と命じられた。
- 21 そのときからイエスは、ご自分がエルサレムに行って、長老たち、祭司長たち、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、三日目によみがえらなければならないことを、弟子たちに示し始められた。
- 22 すると、ペテロはイエスをわきにお連れして、いさめ始めた。「主よ、とんでもないことです。そんなことがあなたに起こるはずがありません。」
- 23 しかし、イエスは振り向いてペテロに言われた。「下がれ、サタン。あなたは、わたしをつまづかせるものだ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」
- 24 それからイエスは弟子たちに言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい。」
- 25 自分のいのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしのためにいのちを失う者はそれを見出すのです。
- 26 人は、たとえ全世界を手に入れても、自分のいのちを失ったら何の益があるのでしょうか。そのいのちを買い戻すのに、人は何を差し出せばよいのでしょうか。
- 27 人の子は、やがて父の栄光を帯びて御使いたちとともに来ます。そしてそのときには、それぞれその行いに応じて報います。
- 28 まことに、あなたがたに言います。ここに立っている人たちの中には、人の子が御国とともに来るのを見るまで、決して死を味わわない人たちがいます。」

第17章

- 1 それから六日目に、イエスはペテロとヤコブとその兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。
- 2 すると、弟子たちの目の前でその御姿が変わった。顔は太陽のように輝き、衣は光のように白くなった。
- 3 そして、見よ、モーセとエリヤが彼らの前に現れて、イエスと語り合っていた。
- 4 そこでペテロがイエスに言った。「主よ、私たちがここにいることは素晴らしいことです。よろしければ、私がここに幕屋を三つ造ります。あなたのために一つ、モーセのために一つ、エリヤのために一つ。」
- 5 彼がまだ話している間に、見よ、光り輝く雲が彼らをおおった。すると見よ、雲の中から「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。彼の言うことを聞け」という声がした。
- 6 弟子たちはこれを聞いて、ひれ伏した。そして非常に恐れた。
- 7 するとイエスが近づいて彼らに触れ、「起きなさい。恐れることはない」と言われた。
- 8 彼らが目を上げると、イエス一人のほかには、だれも見えなかった。
- 9 彼らが山を下るとき、イエスは彼らに命じられた。「あなたがたが見たことを、だれにも話してはいけません。人の子が死人の中からよみがえるまでは。」
- 10 すると、弟子たちはイエスに尋ねた。「そうすると、まずエリヤが来るはずだと律法学者たちが言っているのは、どういうことなのですか。」
- 11 イエスは答えられた。「エリヤが来て、すべてを立て直します。」

- 12 しかし、わたしはあなたがたに言います。エリヤはすでに来たのです。ところが人々はエリヤを認めず、彼に対して好き勝手なことをしました。同じように人の子も、人々から苦しみを受けることになります。」
- 13 そのとき弟子たちは、イエスが自分たちに言われたのは、バプテスマのヨハネのことだと気づいた。
- 14 彼らが群衆のところに行くと、一人の人がイエスに近寄って来て御前にひざまずき、
- 15 こう言った。「主よ、私の息子をあわれんでください。てんかんで、たいへん苦しんでいます。何度も火の中に倒れ、また何度も水の中に倒れました。
- 16 そこで、息子をあなたのお弟子たちのところに連れて来たのですが、治すことができませんでした。」
- 17 イエスは答えられた。「ああ、不信仰な曲がった時代だ。いつまであなたがたと一緒にいなければならないのか。いつまであなたがたに我慢しなければならないのか。その子をわたしのところに連れて来なさい。」
- 18 そして、イエスがその子をお叱りになると悪霊は出て行き、すぐにその子は癒やされた。
- 19 それから、弟子たちはそっとイエスのもとに来て言った。「なぜ私たちは悪霊を追い出せなかったのですか。」
- 20 イエスは言われた。「あなたがたの信仰が薄いからです。まことに、あなたがたに言います。もし、からし種ほどの信仰があるなら、この山に『ここからあそこに移れ』と言えば移りません。あなたがたにできないことは何もありません。」
- 22 彼らがガリラヤに集まっていたとき、イエスは言われた。「人の子は、人々の手に渡されようとしています。
- 23 人の子は彼らに殺されるが、三日目によみがえります。」すると彼らはたいへん悲しんだ。
- 24 彼らがカペナウムに着いたとき、神殿税を集める人たちがペテロのところ近くに近寄って来て言った。「あなたがたの先生は神殿税を納めないのですか。」
- 25 彼は「納めます」と言った。そして家に入ると、イエスのほうから先にこう言われた。「シモン、あなたはどう思いますか。地上の王たちはだれから税や貢ぎ物を取りますか。自分の子たちからですか、それとも、ほかの人たちからですか。」
- 26 ペテロが「ほかの人たちからです」と言うと、イエスは言われた。「ですから、子たちにはその義務がないのです。
- 27 しかし、あの人たちをつまずかせないために、湖に行って釣り糸を垂れ、最初に釣れた魚を取りなさい。その口を開けるとスタテル銀貨一枚が見つかります。それを取って、わたしとあなたの分として納めなさい。」

第18章

- 1 そのとき、弟子たちがイエスのところに来て言った。「天の御国では、いったいだれが一番偉いのですか。」
- 2 イエスは一人の子どもを呼び寄せ、彼らの真ん中に立たせて、
- 3 こう言われた。「まことに、あなたがたに言います。向きを変えて子どもたちのようにならないければ、決して天の御国に入れません。
- 4 ですから、だれでもこの子どものように自分を低くする人が、天の御国で一番偉いのです。

- 5 また、だれでもこのような子どもの一人を、わたしの名のゆえに受け入れる人は、わたしを受け入れるのです。
- 6 わたしを信じるこの小さい者たちの一人をつまずかせる者は、大きな石臼を首にかけられて、海の深みに沈められるほうがよいのです。
- 7 つまずきを与えるこの世はわざわざいす。つまずきが起こるのは避けられませんが、つまずきをもたらす者はわざわざいす。
- 8 あなたの手が足があなたをつまずかせるなら、それを切って捨てなさい。片手片足でいのちに入るほうが、両手両足そろったままで永遠の火に投げ込まれるよりよいのです。
- 9 また、もしあなたの目があなたをつまずかせるなら、それをえぐり出して捨てなさい。片目でいのちに入るほうが、両目そろったままゲヘナの火に投げ込まれるよりよいのです。
- 10 あなたがたは、この小さい者たちの一人を軽んじたりしないように気をつけなさい。あなたがたに言いますが、天にいる、彼らの御使いたちは、天におられるわたしの父の御顔をいつも見ているからです。
- 12 あなたがたはどう思いますか。もしある人に羊が百匹いて、そのうちの一匹が迷い出たら、その人は九十九匹を山に残して、迷った一匹を捜しに出かけないでしょうか。
- 13 まことに、あなたがたに言います。もしその羊を見つけたなら、その人は、迷わなかった九十九匹の羊以上にこの一匹を喜びます。
- 14 このように、この小さい者たちの一人が滅びることは、天におられるあなたがたの父のみこころではありません。
- 15 また、もしあなたの兄弟があなたに対して罪を犯したなら、行って二人だけのところで指摘しなさい。その人があなたの言うことを聞き入れるなら、あなたは自分の兄弟を得たことになりす。
- 16 もし聞き入れないなら、ほかに一人か二人、一緒に連れて行きなさい。二人または三人の証人の証言によって、すべてのことが立証されるようにするためです。
- 17 それでもなお、言うことを聞き入れないなら、教会に伝えなさい。教会の言うことさえも聞き入れないなら、彼を異邦人か取税人のように扱いなさい。
- 18 まことに、あなたがたに言います。何でもあなたがたが地上でつなぐことは天でもつなぐがれ、何でもあなたがたが地上で解くことは天でも解かれます。
- 19 まことに、もう一度あなたがたに言います。あなたがたのうちの二人が、どんなことでも地上で心をつなぐにして祈るなら、天におられるわたしの父はそれをかなえてくださいます。
- 20 二人か三人がわたしの名において集まっているところには、わたしもその中にいるのです。」
- 21 そのとき、ペテロがみもとに来て言った。「主よ。兄弟が私に対して罪を犯した場合、何回赦すべきでしょうか。七回まででしょうか。」
- 22 イエスは言われた。「わたしは七回までとは言いません。七回を七十倍するまでです。
- 23 ですから、天の御国は、王である一人の人にたとえることができます。その人は自分の家来たちと清算をしたいと思った。
- 24 清算が始まると、まず一万タラントの負債のある者が、王のところ連れて来られた。
- 25 彼は返済することができなかつたので、その主君は彼に、自分自身も妻子も、持っている物もすべて売って返済するように命じた。

- 26 それで、家来はひれ伏して主君を拝し、『もう少し待ってください。そうすればすべてお返しします』と言った。
- 27 家来の主君はかわいそうに思って彼を赦し、負債を免除してやった。
- 28 ところが、その家来が出て行くと、自分に百デナリの借りがある仲間の一人に出会った。彼はその人を捕まえて首を絞め、『借金を返せ』と言った。
- 29 彼の仲間はひれ伏して、『もう少し待ってください。そうすればお返しします』と嘆願した。
- 30 しかし彼は承知せず、その人を引いて行って、負債を返すまで牢に放り込んだ。
- 31 彼の仲間たちは事の成り行きを見て非常に心を痛め、行って一部始終を主君に話した。
- 32 そこで主君は彼を呼びつけて言った。『悪い家来だ。おまえが私に懇願したから、私はおまえの負債をすべて免除してやったのだ。』
- 33 私がおまえをあわれんでやったように、おまえも自分の仲間をあわれんでやるべきではなかったのか。』
- 34 こうして、主君は怒って、負債をすべて返すまで彼を獄吏たちに引き渡した。
- 35 あなたがたもそれぞれ自分の兄弟を心から赦さないなら、わたしの天の父もあなたがたに、このようになさるのです。」

第19章

- 1 イエスはこれらの話を終えると、ガリラヤを去り、ヨルダンの川向こうを経てユダヤ地方へ入られた。
- 2 すると大勢の群衆がついて来たので、その場で彼らを癒やされた。
- 3 パリサイ人たちがみもとに来て、イエスを試みるために言った。「何か理由があれば、妻を離縁することは律法にかなっているでしょうか。」
- 4 イエスは答えられた。「あなたがたは読んだことがないのですか。創造者ははじめの時から『男と女に彼らを創造され』ました。
- 5 そして、『それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである』と言われました。
- 6 ですから、彼らはもはやふたりではなく一体なのです。そういうわけで、神が結び合わせたものを人が引き離してはなりません。」
- 7 彼らはイエスに言った。「それでは、なぜモーセは離縁状を渡して妻を離縁せよと命じたのですか。」
- 8 イエスは彼らに言われた。「モーセは、あなたがたの心が頑ななので、あなたがたに妻を離縁することを許したのです。しかし、はじめの時からそうだったのではありません。
- 9 あなたがたに言います。だれでも、淫らな行い以外の理由で自分の妻を離縁し、別の女を妻とする者は、姦淫を犯すことになるのです。」
- 10 弟子たちはイエスに言った。「もし夫と妻の関係がそのようなものなら、結婚しないほうがましです。」
- 11 しかし、イエスは言われた。「そのことばは、だれもが受け入れられるわけではありません。ただ、それが許されている人だけができるのです。」

- 12 母の胎から独身者として生まれた人たちがいます。また、人から独身者にさせられた人たちもいます。また、天の御国のために、自分から独身者になった人たちもいます。それを受け入れることができる人は、受け入れなさい。」
- 13 そのとき、イエスに手を置いて祈っていただくために、子どもたちがみもとに連れて来られた。すると弟子たちは、連れて来た人たちを叱った。
- 14 しかし、イエスは言われた。「子どもたちを来させなさい。わたしのところに来るのを邪魔してはいけません。天の御国はこのような者たちのものなのです。」
- 15 そして手を子どもたちの上に置いてから、そこを去って行かれた。
- 16 すると見よ、一人の人がイエスに近づいて来て言った。「先生。永遠のいのちを得るためには、どんな良いことをすればよいのでしょうか。」
- 17 イエスは彼に言われた。「なぜ、良いことについて、わたしに尋ねるのですか。良い方はおひとりです。いのちに入りたいと思うなら戒めを守りなさい。」
- 18 彼は「どの戒めですか」と言った。そこでイエスは答えられた。「殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。偽りの証言をしてはならない。」
- 19 父と母を敬え。あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。」
- 20 この青年はイエスに言った。「私はそれらすべてを守ってきました。何がまだ欠けているのでしょうか。」
- 21 イエスは彼に言われた。「完全になりたいのなら、帰って、あなたの財産を売り払って貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を持つことになります。そのうえで、わたしに従って来なさい。」
- 22 青年はこのことばを聞くと、悲しみながら立ち去った。多くの財産を持っていたからである。
- 23 そこで、イエスは弟子たちに言われた。「まことに、あなたがたに言います。金持ちが天の御国に入るのは難しいことです。
- 24 もう一度あなたがたに言います。金持ちが神の国に入るよりは、らくだが針の穴を通るほうが易しいのです。」
- 25 弟子たちはこれを聞くと、たいへん驚いて言った。「それでは、だれが救われることができるでしょう。」
- 26 イエスは彼らをじっと見つめて言われた。「それは人にはできないことですが、神にはどんなことでもできます。」
- 27 そのとき、ペテロはイエスに言った。「ご覧ください。私たちはすべてを捨てて、あなたに従って来ました。それで、私たちは何をいただけるのでしょうか。」
- 28 そこでイエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに言います。人の子がその栄光の座に着くとき、その新しい世界で、わたしに従って来たあなたがたも十二の座に着いて、イスラエルの十二の部族を治めます。
- 29 また、わたしの名のために、家、兄弟、姉妹、父、母、子ども、畑を捨てた者はみな、その百倍を受け、また永遠のいのちを受け継ぎます。
- 30 しかし、先にいる多くの者が後になり、後にいる多くの者が先になります。

第20章

- 1 天の御国は、自分のぶどう園で働く者を雇うために朝早く出かけた、家の主人のようなものです。
- 2 彼は労働者たちと一日一デナリの約束をすると、彼らをぶどう園に送った。
- 3 彼はまた、九時ごろ出て行き、別の人たちが市場で何もしないで立っているのを見た。
- 4 そこで、その人たちに言った。『あなたがたもぶどう園に行きなさい。相当の賃金を払うから。』
- 5 彼らは出かけて行った。主人はまた十二時ごろと三時ごろにも出て行って同じようにした。
- 6 また、五時ごろ出て行き、別の人たちが立っているのを見つけた。そこで、彼らに言った。『なぜ一日中何もしないでここに立っているのですか。』
- 7 彼らは言った。『だれも雇ってくれないからです。』主人は言った。『あなたがたもぶどう園に行きなさい。』
- 8 夕方になったので、ぶどう園の主人は監督に言った。『労働者たちを呼んで、最後に来た者たちから始めて、最初に来た者たちにまで賃金を払ってやりなさい。』
- 9 そこで、五時ごろに雇われた者たちが来て、それぞれ一デナリずつ受け取った。
- 10 最初の者たちが来て、もっと多くもらえるだろうと思ったが、彼らが受け取ったのも一デナリずつであった。
- 11 彼らはそれを受け取ると、主人に不満をもらした。
- 12 『最後に来たこの者たちが働いたのは、一時間だけです。それなのにあなたは、一日の労苦と焼けるような暑さを辛抱した私たちと、同じように扱いました。』
- 13 しかし、主人はその一人に答えた。『友よ、私はあなたに不当なことはしていません。あなたは私と、一デナリで同意したではありませんか。』
- 14 あなたの分を取って帰りなさい。私はこの最後の人にも、あなたと同じだけ与えたいのです。
- 15 自分のもので自分のしたいことをしてはいけませんか。それとも、私が気前がいいので、あなたはねたんでいるのですか。』
- 16 このように、後の者が先になり、先の者が後になります。」
- 17 さて、イエスはエルサレムに上る途中、十二弟子だけを呼んで、道々彼らに話された。
- 18 「ご覧なさい。わたしたちはエルサレムに上って行きます。人の子は祭司長たちや律法学者たちに引き渡されます。彼らは人の子を死刑に定め、
- 19 異邦人に引き渡します。嘲り、むちで打ち、十字架につけるためです。しかし、人の子は三日目によみがえります。」
- 20 そのとき、ゼバダイの息子たちの母が、息子たちと一緒にイエスのところに来てひれ伏し、何かを願おうとした。
- 21 イエスが彼女に「何を願うのですか」と言われると、彼女は言った。「私のこの二人の息子があなたの御国で、一人はあなたの右に、一人は左に座れるように、おことばを下さい。」
- 22 イエスは答えられた。「あなたがたは自分が何を求めているのか分かっていません。わたしが飲もうとしている杯を飲むことができますか。」彼らは「できます」と言った。
- 23 イエスは言われた。「あなたがたはわたしの杯を飲むことになります。しかし、わたしの右と左に座ることは、わたしが許すことではありません。わたしの父によって備えられた人たちに

与えられるのです。」

- 24 ほかの十人はこれを聞いて、この二人の兄弟に腹を立てた。
- 25 そこで、イエスは彼らと呼ばい寄せて言われた。「あなたがたも知っているとおりに、異邦人の支配者たちは人々に対して横柄にふるまい、偉い人たちは人々の上に権力をふるっています。
- 26 あなたがたの間では、そうであってはなりません。あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、皆に仕える者になりなさい。
- 27 あなたがたの間で先頭に立ちたいと思う者は、皆のしもべになりなさい。
- 28 人の子が、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人のための贖いの代価として、自分のいのちを与えるために来たのと、同じようにしなさい。」
- 29 さて、一行がエリコを出て行くと、大勢の群衆がイエスについて行った。
- 30 すると見よ。道端に座っていた目の見えない二人の人が、イエスが通られると聞いて、「主よ、ダビデの子よ。私たちをあわれんでください」と叫んだ。
- 31 群衆は彼らを黙らせようとたしなめたが、彼らはますます、「主よ、ダビデの子よ。私たちをあわれんでください」と叫んだ。
- 32 イエスは立ち止まり、彼らと呼ばいで言われた。「わたしに何をしてほしいのですか。」
- 33 彼らは言った。「主よ、目を開けていただきたいのです。」
- 34 イエスは深くあわれんで、彼らの目に触れられた。すると、すぐに彼らは見えるようになり、イエスについて行った。

第21章

- 1 さて、一行がエルサレムに近づいて、オリーブ山のふもとのベテパゲまで来たそのとき、イエスはこう言って、二人の弟子を遣わされた。
- 2 「向こうの村へ行きなさい。そうすればすぐに、ろばがつながれていて、一緒に子ろばがいるのに気がつくでしょう。それをほどいて、わたしのところに連れて来なさい。
- 3 もしだれかが何か言ったら、『主がお入り用なのです』と言いなさい。すぐに渡してください。」
- 4 このことが起こったのは、預言者を通して語られたことが成就するためであった。
- 5 「娘シオンに言え。『見よ、あなたの王があなたのところに来る。柔和な方で、ろばに乗って。荷ろばの子である、子ろばに乗って。』」
- 6 そこで弟子たちは行って、イエスが命じられたとおりにし、
- 7 ろばと子ろばを連れて来て、自分たちの上着をその上に掛けた。そこでイエスはその上に座られた。
- 8 すると非常に多くの群衆が、自分たちの上着を道に敷いた。また、木の枝を切って道に敷く者たちもいた。
- 9 群衆は、イエスの前を行く者たちも後に続く者たちも、こう言って叫んだ。「ホサナ、ダビデの子に。祝福あれ、主の御名によって来られる方に。ホサナ、いと高き所に。」
- 10 こうしてイエスがエルサレムに入られると、都中が大騒ぎになり、「この人はだれなのか」と言った。
- 11 群衆は「この人はガリラヤのナザレから出た預言者イエスだ」と言っていた。

- 12 それから、イエスは宮に入って、その中で売り買いしている者たちをみな追い出し、両替人の台や、鳩を売る者たちの腰掛けを倒された。
- 13 そして彼らに言われた。「『わたしの家は祈りの家と呼ばれる』と書いてある。それなのに、おまえたちはそれを『強盗の巣』にしている。」
- 14 また、宮の中で、目の見えない人たちや足の不自由な人たちがみもとに来たので、イエスは彼らを癒やされた。
- 15 ところが祭司長たちや律法学者たちは、イエスがなさったいろいろな驚くべきことを見て、また宮の中で子どもたちが「ダビデの子にホサナ」と叫んでいるのを見て腹を立て、
- 16 イエスに言った。「子どもたちが何と言っているか、聞いていますか。」イエスは言われた。「聞いています。『幼子たち、乳飲み子たちの口を通して、あなたは誉れを打ち立てられました』とあるのを、あなたがたは読んだことがないのですか。」
- 17 イエスは彼らを後に残し、都を出てベタニアに行き、そこに泊まられた。
- 18 さて、朝早く都に帰る途中、イエスは空腹を覚えられた。
- 19 道端に一本のいちじくの木が見えたので、そこに行って見ると、葉があるだけで、ほかには何もなかった。それでイエスはその木に「今後いつまでも、おまえの実はならないように」と言われた。すると、たちまちいちじくの木は枯れた。
- 20 弟子たちはこれを見て驚き、「どうして、すぐにいちじくの木が枯れたのでしょうか」と言った。
- 21 イエスは答えられた。「まことに、あなたがたに言います。もし、あなたがたが信じて疑わなければ、いちじくの木に起こったことを起こせるだけでなく、この山に向かい、『立ち上がって、海に入れ』と言えば、そのとおりになります。」
- 22 あなたがたは、信じて祈り求めるものは何でも受けることになります。」
- 23 それからイエスが宮に入って教えておられると、祭司長たちや民の長老たちがイエスのもとに来て言った。「何の権威によって、これらのことをしているのですか。だれがあなたにその権威を授けたのですか。」
- 24 イエスは彼らに答えられた。「わたしも一言尋ねましょう。それにあなたがたが答えるなら、わたしも、何の権威によってこれらのことをしているのか言いましょう。」
- 25 ヨハネのバプテスマは、どこから来たものですか。天からですか、それとも人からですか。」すると彼らは論じ合った。「もし天からと言えば、それならなぜヨハネを信じなかったのかと言うだろう。」
- 26 だが、もし人から出たと言えば、群衆が怖い。彼らはみなヨハネを預言者と思っているのだから。」
- 27 そこで彼らはイエスに「分かりません」と答えた。イエスもまた、彼らにこう言われた。「わたしも、何の権威によってこれらのことをするのか、あなたがたに言いません。」
- 28 ところで、あなたがたはどう思いますか。ある人に息子が二人いた。その人は兄のところに来て、『子よ、今日、ぶどう園に行っておいでしてくれ』と言った。
- 29 兄は『行きたくありません』と答えたが、後になって思い直し、出かけて行った。
- 30 その人は弟のところに来て、同じように言った。弟は『行きます、お父さん』と答えたが、行かなかった。

- 31 二人のうちのどちらが父の願ったとおりにしたでしょうか。」彼らは言った。「兄です。」イエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに言います。取税人たちや遊女たちが、あなたがたより先に神の国に入ります。
- 32 なぜなら、ヨハネがあなたがたのところにきて義の道を示したのに、あなたがたは信じず、取税人たちや遊女たちは信じたからです。あなたがたはそれを見ても、後で思い直して信じることをしませんでした。
- 33 もう一つのたとえを聞きなさい。ある家の主人がいた。彼はぶどう園を造って垣根を巡らし、その中に踏み場を掘り、見張りやぐらを建て、それを農夫たちに貸して旅に出た。
- 34 収穫の 때가近づいたので、主人は自分の収穫を受け取ろうとして、農夫たちのところにしもべたちを遣わした。
- 35 ところが、農夫たちはそのしもべたちを捕らえて、一人を打ちたたき、一人を殺し、一人を石打ちにした。
- 36 主人は、前よりも多くの、別のしもべたちを再び遣わしたが、農夫たちは彼らにも同じようにした。
- 37 その後、主人は『私の息子なら敬ってくれるだろう』と言って、息子を彼らのところに遣わした。
- 38 すると農夫たちは、その息子を見て、『あれは跡取りだ。さあ、あれを殺して、あれの相続財産を手に入れよう』と話し合った。
- 39 そして彼を捕らえ、ぶどう園の外に放り出して殺してしまった。
- 40 ぶどう園の主人が帰って来たら、その農夫たちをどうするでしょうか。」
- 41 彼らはイエスに言った。「その悪者どもを情け容赦なく滅ぼして、そのぶどう園を、収穫の 때가来れば収穫を納める別の農夫たちに貸すでしょう。」
- 42 イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、聖書に次のようにあるのを読んだことがないのですか。『家を建てる者たちが捨てた石、それが要の石となった。これは主がなさったこと。私たちの目には不思議なことだ。』
- 43 ですから、わたしは言っておきます。神の国はあなたがたから取り去られ、神の国の実を結ぶ民に与えられます。
- 44 また、この石の上に落ちる人は粉々に砕かれ、この石が人の上に落ちれば、その人を押しつぶします。」
- 45 祭司長たちとパリサイ人たちは、イエスのこれらのたとえを聞いたとき、自分たちについて話しておられることに気づいた。
- 46 それでイエスを捕らえようとしたが、群衆を恐れた。群衆はイエスを預言者と認めていたからである。

第22章

- 1 イエスは彼らに対し、再びたとえをもって話された。
- 2 「天の御国は、自分の息子のために、結婚の披露宴を催した王にたとえることができます。
- 3 王は披露宴に招待した客を呼びにしもべたちを遣わしたが、彼らは来ようとしなかった。
- 4 それで再び、次のように言って別のしもべたちを遣わした。『招待した客にこう言いなさい。「私は食事を用意しました。私の雄牛や肥えた家畜を屠り、何もかも整いました。どうぞ披露

宴においでください」と。』

- 5 ところが彼らは気にもかけず、ある者は自分の畑に、別の者は自分の商売に出て行き、
- 6 残りの者たちは、王のしもべたちを捕まえて侮辱し、殺してしまった。
- 7 王は怒って軍隊を送り、その人殺しどもを滅ぼして、彼らの町を焼き払った。
- 8 それから王はしもべたちに言った。『披露宴の用意はできているが、招待した人たちはふさわしくなかった。
- 9 だから大通りに行って、出会った人をみな披露宴に招きなさい。』
- 10 しもべたちは通りに出て行って、良い人でも悪い人でも出会った人をみな集めたので、披露宴は客でいっぱいになった。
- 11 王が客たちを見ようとして入って来ると、そこに婚礼の礼服を着ていない人が一人いた。
- 12 王はその人に言った。『友よ。どうして婚礼の礼服を着ないで、ここに入って来たのか。』しかし、彼は黙っていた。
- 13 そこで、王は召使いたちに言った。『この男の手足を縛って、外の暗闇に放り出せ。この男はそこで泣いて歯ぎしりすることになる。』
- 14 招かれる人は多いが、選ばれる人は少ないのです。」
- 15 そのころ、パリサイ人たちは出て来て、どのようにしてイエスをことばの罫にかけようかと相談した。
- 16 彼らは自分の弟子たちを、ヘロデ党の者たちと一緒にイエスのもとに遣わして、こう言った。「先生。私たちは、あなたが真実な方で、真理に基づいて神の道を教え、だれにも遠慮しない方だと知っております。あなたは人の顔色を見ないからです。
- 17 ですから、どう思われるか、お聞かせください。カエサルに税金を納めることは律法にかなっているのでしょうか、いないのでしょうか。」
- 18 イエスは彼らの悪意を見抜いて言われた。「なぜわたしを試すのですか、偽善者たち。
- 19 税として納めるお金を見せなさい。」そこで彼らはデナリ銀貨をイエスのもとに持って来た。
- 20 イエスは彼らに言われた。「これはだれの肖像と銘ですか。」
- 21 彼らは「カエサルのです」と言った。そのときイエスは言われた。「それなら、カエサルのものはカエサルに、神のものは神に返しなさい。」
- 22 彼らはこれを聞いて驚嘆し、イエスを残して立ち去った。
- 23 その日、復活はないと言っているサドカイ人たちが、イエスのところに来て質問した。
- 24 「先生。モーセは、『もしある人が、子がないままで死んだなら、その弟は兄の妻と結婚して、兄のために子孫を起ささなければならない』と言いました。
- 25 ところで、私たちの間に七人の兄弟がいました。長男は結婚しましたが死にました。子がいなかったなので、その妻を弟に残しました。
- 26 次男も三男も、そして七人までも同じようになりました。
- 27 そして最後に、その妻も死にました。
- 28 では復活の際、彼女は七人のうちのだれの妻になるのでしょうか。彼らはみな、彼女を妻にしたのですが。」
- 29 イエスは彼らに答えられた。「あなたがたは聖書も神の力も知らないのです、思い違いをしています。

- 30 復活の時には人はめとることも嫁ぐこともなく、天の御使いたちのようです。
- 31 死人の復活については、神があなたがたにこう語られたのを読んだことがないのですか。
- 32 『わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である。』神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神です。」
- 33 群衆はこれを聞いて、イエスの教えに驚嘆した。
- 34 パリサイ人たちはイエスがサドカイ人たちを黙らせたと聞いて、一緒に集まった。
- 35 そして彼らのうちの一人、律法の専門家がイエスを試そうとして尋ねた。
- 36 「先生、律法の中でどの戒めが一番重要ですか。」
- 37 イエスは彼に言われた。「『あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。』
- 38 これが、重要な第一の戒めです。
- 39 『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい』という第二の戒めも、それと同じように重要です。
- 40 この二つの戒めに律法と預言者の全体がかかっているのです。」
- 41 パリサイ人たちが集まっていたとき、イエスは彼らにお尋ねになった。
- 42 「あなたがたはキリストについてどう思いますか。彼はだれの子ですか。」彼らはイエスに言った。「ダビデの子です。」
- 43 イエスは彼らに言われた。「それでは、どうしてダビデは御霊によってキリストを主と呼び、
- 44 『主は、私の主に言われた。「あなたは、わたしの右の座に着いていなさい。わたしがあなたの敵を あなたの足台とするまで」』と言っているのですか。
- 45 ダビデがキリストを主と呼んでいるのなら、どうしてキリストがダビデの子なのでしょう。」
- 46 するとだれ一人、一言もイエスに答えられなかった。その日から、もうだれも、あえてイエスに質問しようとはしなかった。

第23章

- 1 そのとき、イエスは群衆と弟子たちに語られた。
- 2 「律法学者たちやパリサイ人たちはモーセの座に着いています。
- 3 ですから、彼らがあなたがたに言うことはすべて実行し、守りなさい。しかし、彼らの行いをまねてはいけません。彼らは言うだけで実行しないからです。
- 4 また彼らは、重くて負いきれない荷を束ねて人々の肩に載せるが、それを動かすのに自分は指一本貸そうともしません。
- 5 彼らがしている行いはすべて人に見せるためです。彼らは聖句を入れる小箱を大きくしたり、衣の房を長くしたりするのです。
- 6 宴会では上座を、会堂では上席を好み、
- 7 広場であいさつされること、人々から先生と呼ばれることが好きです。
- 8 しかし、あなたがたは先生と呼ばれてはいけません。あなたがたの教師はただ一人で、あなたがたはみな兄弟だからです。
- 9 あなたがたは地上で、だれかを自分たちの父と呼んではいけません。あなたがたの父はただ一人、天におられる父だけです。

- 10 また、師と呼ばれてはいけません。あなたがたの師はただ一人、キリストだけです。
- 11 あなたがたのうちで一番偉い者は皆に仕える者になりなさい。
- 12 だれでも、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされます。
- 13 わざわいだ、偽善の律法学者、パリサイ人。おまえたちは人々の前で天の御国を閉ざしている。おまえたち自身も入らず、入ろうとしている人々も入らせない。
- 15 わざわいだ、偽善の律法学者、パリサイ人。おまえたちは一人の改宗者を得るのに海と陸を巡り歩く。そして改宗者ができる、その人を自分より倍も悪いゲヘナの子にするのだ。
- 16 わざわいだ、目の見えない案内人たち。おまえたちは言っている。『だれでも神殿にかけて誓うのであれば、何の義務もない。しかし、神殿の黄金にかけて誓うのであれば、果たす義務がある。』
- 17 愚かで目の見えない者たち。黄金と、その黄金を聖なるものにする神殿と、どちらが重要なのか。
- 18 また、おまえたちは言っている。『だれでも祭壇にかけて誓うのであれば、何の義務もない。しかし、祭壇の上のささげ物にかけて誓うのであれば、果たす義務がある。』
- 19 目の見えない者たち。ささげ物と、そのささげ物を聖なるものにする祭壇と、どちらが重要なのか。
- 20 祭壇にかけて誓う者は、祭壇とその上にあるすべてのものにかけて誓っているのだ。
- 21 また、神殿にかけて誓う者は、神殿とそこに住まわれる方にかけて誓っているのだ。
- 22 天にかけて誓う者は、神の御座とそこに座しておられる方にかけて誓っているのだ。
- 23 わざわいだ、偽善の律法学者、パリサイ人。おまえたちはミント、イノンド、クミンの十分の一を納めているが、律法の中ではるかに重要なもの、正義とあわれみと誠実をおろそかにしている。十分の一もおろそかにしてはいけないが、これこそしなければならないことだ。
- 24 目の見えない案内人たち。ブヨはこして除くのに、らくだは飲み込んでいる。
- 25 わざわいだ、偽善の律法学者、パリサイ人。おまえたちは杯や皿の外側はきよめるが、内側は強欲と放縦で満ちている。
- 26 目の見えないパリサイ人。まず、杯の内側をきよめよ。そうすれば外側もきよくなる。
- 27 わざわいだ、偽善の律法学者、パリサイ人。おまえたちは白く塗った墓のようなものだ。外側は美しく見えても、内側は死人の骨やあらゆる汚れでいっぱいだ。
- 28 同じように、おまえたちも外側は人に正しく見えても、内側は偽善と不法でいっぱいだ。
- 29 わざわいだ、偽善の律法学者、パリサイ人。おまえたちは預言者たちの墓を建て、義人たちの記念碑を飾って、
- 30 こう言う。『もし私たちが先祖の時代に生きていたら、彼らの仲間になって預言者たちの血を流すということはなかっただろう。』
- 31 こうして、自分たちが預言者を殺した者たちの子らであることを、自らに対して証言している。
- 32 おまえたちは自分の先祖の罪の升を満たすがよい。
- 33 蛇よ、まむしの子孫よ。おまえたちは、ゲヘナの刑罰をどうして逃れることができるだろうか。
- 34 だから、見よ、わたしは預言者、知者、律法学者を遣わすが、おまえたちはそのうちのある者を殺し、十字架につけ、またある者を会堂でむち打ち、町から町へと迫害して回る。

- 35 それは、義人アベルの血から、神殿と祭壇の間でおまえたちが殺した、バラキヤの子ザカリヤの血まで、地上で流される正しい人の血が、すべておまえたちに降りかかるようになるためだ。
- 36 まことに、おまえたちに言う。これらの報いはすべて、この時代の上に降りかかる。
- 37 エルサレム、エルサレム。預言者たちを殺し、自分に遣わされた人たちを石で打つ者よ。わたしは何度、めんどりがひなを翼の下に集めるように、おまえの子らを集めようとしたことか。それなのに、おまえたちはそれを望まなかった。
- 38 見よ。おまえたちの家は、荒れ果てたまま見捨てられる。
- 39 わたしはおまえたちに言う。今から後、『祝福あれ、主の御名によって来られる方に』とおまえたちが言う時が来るまで、決しておまえたちがわたしを見ることはない。」

第24章

- 1 イエスが宮を出て行かれると、弟子たちが近寄って来て、イエスに向かって宮の建物を指し示した。
- 2 すると、イエスは弟子たちに言われた。「あなたがたはこれらの物すべてを見ているのですか。まことに、あなたがたに言います。ここで、どの石も崩されずに、ほかの石の上に残ることは決してありません。」
- 3 イエスがオリーブ山で座っておられると、弟子たちがひそかにみもとに来て言った。「お話しください。いつ、そのようなことが起こるのですか。あなたが来られ、世が終わる時のしるしは、どのようなものですか。」
- 4 そこでイエスは彼らに答えられた。「人に惑わされないように気をつけなさい。
- 5 わたしの名を名乗る者が大勢現れ、『私こそキリストだ』と言って、多くの人を惑わします。
- 6 また、戦争や戦争のうわさを聞くことになりましたが、気をつけて、うろたえないようにしなさい。そういうことは必ず起こりますが、まだ終わりではありません。
- 7 民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、あちこちで飢饉と地震が起こります。
- 8 しかし、これらはすべて産みの苦しみの始まりなのです。
- 9 そのとき、人々はあなたがたを苦しみにあわせ、殺します。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての国の人々に憎まれます。
- 10 そのとき多くの人がつまずき、互いに裏切り、憎み合います。
- 11 また、偽預言者が大勢現れて、多くの人を惑わします。
- 12 不法がはびこるので、多くの人々の愛が冷えます。
- 13 しかし、最後まで耐え忍ぶ人は救われます。
- 14 御国のこの福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての民族に証しされ、それから終わりが来ます。
- 15 それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす忌まわしいもの』が聖なる所に立っているのを見たら―読者はよく理解せよ―
- 16 ユダヤにいる人たちは山へ逃げなさい。
- 17 屋上にいる人は、家にある物を取り出そうとして下に降りてはいけません。
- 18 畑にいる人は上着を取りに戻ってはいけません。

- 19 それらの日、身重の女たちと乳飲み子を持つ女たちは哀れです。
- 20 あなたがたの逃げるのが冬や安息日にならないように祈りなさい。
- 21 そのときには、世の始まりから今に至るまでなかったような、また今後も決してないような、大きな苦難があるからです。
- 22 もしその日数が少なくされないなら、一人も救われなんでしょう。しかし、選ばれた者たちのために、その日数は少なくされます。
- 23 そのとき、だれかが『見よ、ここにキリストがいる』とか『そこにいる』とか言っても、信じてはいけません。
- 24 偽キリストたち、偽預言者たちが現れて、できれば選ばれた者たちをさえ惑わそうと、大きなしや不思議を行います。
- 25 いいですか。わたしはあなたがたに前もって話しました。
- 26 ですから、たとえだれかが『見よ、キリストは荒野にいる』と言っても、出て行ってはいけません。『見よ、奥の部屋にいる』と言っても、信じてはいけません。
- 27 人の子の到来は、稲妻が東から出て西にひらめくのと同じようにして実現するのです。
- 28 死体のあるところには、禿鷹が集まります。
- 29 そうした苦難の日々の後、ただちに太陽は暗くなり、月は光を放たなくなり、星は天から落ち、天のもろもろの力は揺り動かされます。
- 30 そのとき、人の子のしるしが天に現れます。そのとき、地のすべての部族は胸をたたいて悲しみ、人の子が天の雲のうちに、偉大な力と栄光とともに来るのを見るのです。
- 31 人の子は大きなラッパの響きとともに御使いたちを遣わします。すると御使いたちは、天の果てから果てまで四方から、人の子が選んだ者たちを集めます。
- 32 いちじくの木から教訓を学びなさい。枝が柔らかになって葉が出て来ると、夏が近いことが分かります。
- 33 同じように、これらのことをすべて見たら、あなたがたは人の子が戸口まで近づいていることを知りなさい。
- 34 まことに、あなたがたに言います。これらのことがすべて起こるまでは、この時代が過ぎ去ることは決してありません。
- 35 天地は消え去ります。しかし、わたしのことばは決して消え去ることがありません。
- 36 ただし、その日、その時がいつなのかは、だれも知りません。天の御使いたちも子も知りません。ただ父だけが知っておられます。
- 37 人の子の到来はノアの日と同じように実現するのです。
- 38 洪水前の日々にはノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていました。
- 39 洪水が来て、すべての人をさらってしまうまで、彼らには分かりませんでした。人の子の到来もそのように実現するのです。
- 40 そのとき、男が二人畑にいると一人は取られ、一人は残されます。
- 41 女が二人臼をひいていると一人は取られ、一人は残されます。
- 42 ですから、目を覚ましていなさい。あなたがたの主が来られるのがいつの日なのか、あなたがたは知らないのですから。

- 43 次のことは知っておきなさい。泥棒が夜の何時に来るかを知っていたら、家の主人は目を覚ましているでしょうし、自分の家に穴を開けられることはないでしょう。
- 44 ですから、あなたがたも用心していなさい。人の子は思いがけない時に来るのです。
- 45 ですから、主人によってその家のしもべたちの上に任命され、食事時に彼らに食事を与える、忠実で賢いしもべとはいったいだれでしょう。
- 46 主人が帰って来たときに、そのようにしているのを見てもらえるしもべは幸いです。
- 47 まことに、あなたがたに言います。主人はその人に自分の全財産を任せるようになります。
- 48 しかし彼が悪いしもべで、『主人の帰りは遅くなる』と心の中で思い、
- 49 仲間のしもべたちをたたき始め、酒飲みたちと食べたり飲んだりしているなら、
- 50 そのしもべの主人は、予期していない日、思いがけない時に帰って来て、
- 51 彼を厳しく罰し、偽善者たちと同じ報いを与えます。しもべはそこで泣いて歯ぎしりするので

第25章

- 1 そこで、天の御国は、それぞれともしびを持って花婿を迎えに出る、十人の娘にたとえることができます。
- 2 そのうちの五人は愚かで、五人は賢かった。
- 3 愚かな娘たちは、ともしびは持っていたが、油を持って来ていなかった。
- 4 賢い娘たちは自分のともしびと一緒に、入れ物に油を入れて持っていた。
- 5 花婿が来るのが遅くなったので、娘たちはみな眠くなり寝入ってしまった。
- 6 ところが夜中になって、『さあ、花婿だ。迎えに出なさい』と叫ぶ声がした。
- 7 そこで娘たちはみな起きて、自分のともしびを整えた。
- 8 愚かな娘たちは賢い娘たちに言った。『私たちのともしびが消えそうなので、あなたがたの油を分けてください。』
- 9 しかし、賢い娘たちは答えた。『いいえ、分けてあげるにはとても足りません。それより、店に行って自分の分を買ってください。』
- 10 そこで娘たちが買いに行くと、その間に花婿が来た。用意ができていた娘たちは彼と一緒に婚礼の祝宴に入り、戸が閉じられた。
- 11 その後で残りの娘たちも来て、『ご主人様、ご主人様、開けてください』と言った。
- 12 しかし、主人は答えた。『まことに、あなたがたに言います。私はあなたがたを知りません。』
- 13 ですから、目を覚ましていなさい。その日、その時をあなたがたは知らないのですから。
- 14 天の御国は、旅に出るにあたり、自分のしもべたちを呼んで財産を預ける人のようです。
- 15 彼はそれぞれその能力に応じて、一人には五タラント、一人には二タラント、もう一人には一タラントを渡して旅に出かけた。するとすぐに、
- 16 五タラント預かった者は出て行って、それで商売をし、ほかに五タラントをもうけた。
- 17 同じように、二タラント預かった者もほかに二タラントをもうけた。
- 18 一方、一タラント預かった者は出て行って地面に穴を掘り、主人の金を隠した。

- 19 さて、かなり時がたってから、しもべたちの主人が帰って来て彼らと清算をした。
- 20 すると、五タラント預かった者が進み出て、もう五タラントを差し出して言った。『ご主人様。私に五タラント預けてくださいましたが、ご覧ください、私はほかに五タラントをもうけました。』
- 21 主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。おまえはわずかな物に忠実だったから、多くの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』
- 22 ニタラントの者も進み出て言った。『ご主人様。私にニタラント預けてくださいましたが、ご覧ください、ほかにニタラントをもうけました。』
- 23 主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。おまえはわずかな物に忠実だったから、多くの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』
- 24 一タラント預かっていた者も進み出て言った。『ご主人様。あなた様は蒔かなかったところから刈り取り、散らさなかつたところからかき集める、厳しい方だと分かっていました。
- 25 それで私は怖くなり、出て行って、あなた様の一タラントを地の中に隠しておきました。ご覧ください、これがあなた様の物です。』
- 26 しかし、主人は彼に答えた。『悪い、怠け者のしもべだ。私が蒔かなかったところから刈り取り、散らさなかつたところからかき集めると分かっていたというのか。
- 27 それなら、おまえは私の金を銀行に預けておくべきだった。そうすれば、私が帰って来たとき、私の物を利息とともに返してもらえたのに。
- 28 だから、そのタラントを彼から取り上げて、十タラント持っている者に与えよ。
- 29 だれでも持っている者は与えられてもっと豊かになり、持っていない者は持っている物までも取り上げられるのだ。
- 30 この役に立たないしもべは外の暗闇に追い出せ。そこで泣いて歯ざしりするのだ。』
- 31 人の子は、その栄光を帯びてすべての御使いたちを伴って来るとき、その栄光の座に着きます。
- 32 そして、すべての国の人々が御前に集められます。人の子は、羊飼いが羊をやぎからより分けるように彼らをより分け、
- 33 羊を自分の右に、やぎを左に置きます。
- 34 それから王は右にいる者たちに言います。『さあ、わたしの父に祝福された人たち。世界の基が据えられたときから、あなたがたのために備えられていた御国を受け継ぎなさい。
- 35 あなたがたはわたしが空腹であったときに食べ物を与え、渴いていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、
- 36 わたしが裸のときに服を着せ、病気をしたときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからです。』
- 37 すると、その正しい人たちは答えます。『主よ。いつ私たちはあなたが空腹なのを見て食べさせ、渴いているのを見て飲ませて差し上げたでしょうか。
- 38 いつ、旅人であるのを見て宿を貸し、裸なのを見て着せて差し上げたでしょうか。
- 39 いつ私たちは、あなたが病気をしたり牢におられたりするのを見て、お訪ねしたでしょうか。』
- 40 すると、王は彼らに答えます。『まことに、あなたがたに言います。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、それも最も小さい者たちの一人にしたことは、わたしにしたのです。』

- 41 それから、王は左にいる者たちにも言います。『のろわれた者ども。わたしから離れ、悪魔とその使いのために用意された永遠の火に入れ。』
- 42 おまえたちはわたしが空腹であったときに食べ物をくれず、渴いていたときに飲ませず、
- 43 わたしが旅人であったときに宿を貸さず、裸のときに服を着せず、病気のときや牢にいたときに訪ねてくれなかった。』
- 44 すると、彼らも答えます。『主よ。いつ私たちは、あなたが空腹であったり、渴いていたり、旅人であったり、裸でいたり、病気をしていたり、牢におられたりするのを見て、お世話をしなかったのでしょうか。』
- 45 すると、王は彼らに答えます。『まことに、おまえたちに言う。おまえたちがこの最も小さい者たちの一人にしなかったのは、わたしにしなかったのだ。』
- 46 こうして、この者たちは永遠の刑罰に入り、正しい人たちは永遠のいのちに入ります。」

第26章

- 1 イエスはこれらのことばをすべて語り終えると、弟子たちに言われた。
- 2 「あなたがたも知っているとおり、二日たつと過越の祭りになります。そして、人の子は十字架につけられるために引き渡されます。」
- 3 そのころ、祭司長たちや民の長老たちはカヤパという大祭司の邸宅に集まり、
- 4 イエスをだまして捕らえ、殺そうと相談した。
- 5 彼らは、「祭りの間はやめておこう。民の間に騒ぎが起こるといけない」と話していた。
- 6 さて、イエスがベタニアで、ツアラアトに冒された人シモンのお家におられると、
- 7 ある女の人が、非常に高価な香油の入った小さな壺を持って、みもとにやって来た。そして、食卓に着いておられたイエスの頭に香油を注いだ。
- 8 弟子たちはこれを見て、憤慨して言った。「何のために、こんな無駄なことをするのか。」
- 9 この香油なら高く売れて、貧しい人たちに施しができたのに。」
- 10 イエスはこれを知って彼らに言われた。「なぜこの人を困らせるのですか。わたしに良いことをしてくれました。
- 11 貧しい人々はいつもあなたがたと一緒にいます。しかし、わたしはいつも一緒にいるわけではありません。
- 12 この人はこの香油をわたしのからだに注いで、わたしを埋葬する備えをしてくれたのです。
- 13 まことに、あなたがたに言います。世界中どこでも、この福音が宣べ伝えられるところでは、この人がしたことも、この人の記念として語られます。」
- 14 そのとき、十二人の一人で、イスカリオテのユダという者が、祭司長たちのところへ行って、
- 15 こう言った。「私に何をくれますか。この私が、彼をあなたがたに引き渡しましょう。」すると、彼らは銀貨三十枚を彼に支払った。
- 16 そのときから、ユダはイエスを引き渡す機会を狙っていた。
- 17 さて、種なしパンの祭りの最初の日に、弟子たちがイエスのところに来て言った。「過越の食事をなさるのに、どこに用意をしましょうか。」
- 18 イエスは言われた。「都に入り、これこれの人のところに行き行って言いなさい。『わたしの時が近づいた。あなたのところまで弟子たちと一緒に過越を祝いたい、と先生が言っております。』」

す。』」

- 19 弟子たちはイエスが命じられたとおりにして、過越の用意をした。
- 20 夕方になって、イエスは十二人と一緒に食卓に着かれた。
- 21 皆が食事をしているとき、イエスは言われた。「まことに、あなたがたに言います。あなたがたのうちの一人がわたしを裏切ります。」
- 22 弟子たちはたいへん悲しんで、一人ひとりイエスに「主よ、まさか私ではないでしょう」と言い始めた。
- 23 イエスは答えられた。「わたしと一緒に手を鉢に浸した者がわたしを裏切ります。」
- 24 人の子は、自分について書かれているとおりに去って行きます。しかし、人の子を裏切るその人はわざわざいす。そういう人は、生まれて来なければよかったです。」
- 25 すると、イエスを裏切ろうとしていたユダが「先生、まさか私ではないでしょう」と言った。イエスは彼に「いや、そうだ」と言われた。
- 26 また、一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、神をほめたたえてこれを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取って食べなさい。これはわたしのからだです。」
- 27 また、杯を取り、感謝の祈りをささげた後、こう言って彼らにお与えになった。「みな、この杯から飲みなさい。」
- 28 これは多くの人のために、罪の赦しのために流される、わたしの契約の血です。
- 29 わたしはあなたがたに言います。今から後、わたしの父の御国であなたがたと新しく飲むその日まで、わたしがぶどうの実からできた物を飲むことは決してありません。」
- 30 そして、彼らは賛美の歌を歌ってからオリーブ山へ出かけた。
- 31 そのとき、イエスは弟子たちに言われた。「あなたがたはみな、今夜わたしにつまずきます。『わたしは羊飼いを打つ。すると、羊の群れは散らされる』と書いてあるからです。」
- 32 しかしわたしは、よみがえった後、あなたがたより先にガリラヤへ行きます。」
- 33 すると、ペテロがイエスに答えた。「たとえ皆があなたにつまずいても、私は決してつまずきません。」
- 34 イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに言います。あなたは今夜、鶏が鳴く前に三度わたしを知らないと言います。」
- 35 ペテロは言った。「たとえ、あなたと一緒に死ななければならないとしても、あなたを知らないなどとは決して申しません。」弟子たちはみな同じように言った。
- 36 それから、イエスは弟子たちと一緒にゲツセマネという場所に来て、彼らに「わたしがあそこに行き祈っている間、ここに座っていなさい」と言われた。
- 37 そして、ペテロとゼベダイの子二人と一緒に連れて行かれたが、イエスは悲しみもだえ始められた。
- 38 そのとき、イエスは彼らに言われた。「わたしは悲しみのあまり死ぬほどです。ここにいて、わたしと一緒に目を覚ましていなさい。」
- 39 それからイエスは少し進んで行って、ひれ伏して祈られた。「わが父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしが望むようにはなく、あなたが望まれるままに、なさってください。」
- 40 それから、イエスは弟子たちのところに戻って来て、彼らが眠っているのを見、ペテロに言われた。「あなたがたはこのように、一時間でも、わたしとともに目を覚ましていられなかった

のですか。

- 41 誘惑に陥らないように、目を覚まして祈っていなさい。霊は燃えていても肉は弱いのです。」
- 42 イエスは再び二度目に離れて行って、「わが父よ。わたしが飲まなければこの杯が過ぎ去らないのであれば、あなたのみこころがなりますように」と祈られた。
- 43 イエスが再び戻ってご覧になると、弟子たちは眠っていた。まぶたが重くなっていたのである。
- 44 イエスは、彼らを残して再び離れて行き、もう一度同じことばで三度目の祈りをされた。
- 45 それから、イエスは弟子たちのところに来て言われた。「まだ眠って休んでいるのですか。見なさい。時が来ました。人の子は罪人たちの手に渡されます。
- 46 立ちなさい。さあ、行こう。見なさい。わたしを裏切る者が近くに来ています。」
- 47 イエスがまだ話しておられるうちに、見よ、十二人の一人のユダがやって来た。祭司長たちや民の長老たちから差し向けられ、剣や棒を手にした大勢の群衆も一緒であった。
- 48 イエスを裏切ろうとしていた者は彼らと合図を決め、「私が口づけをするのが、その人だ。その人を捕まえるのだ」と言っておいた。
- 49 それで彼はすぐにイエスに近づき、「先生、こんばんは」と言って口づけした。
- 50 イエスは彼に「友よ、あなたがしようとしていることをしなさい」と言われた。そのとき人々は近寄り、イエスに手をかけて捕らえた。
- 51 すると、イエスと一緒にいた者たちの一人が、見よ、手を伸ばして剣を抜き、大祭司のしもべに切りかかり、その耳を切り落とした。
- 52 そのとき、イエスは彼に言われた。「剣をもとに収めなさい。剣を取る者はみな剣で滅びます。
- 53 それとも、わたしが父にお願いして、十二軍団よりも多くの御使いを、今すぐわたしの配下に置いていただくことが、できないと思うのですか。
- 54 しかし、それでは、こうならなければならないと書いてある聖書が、どのようにして成就するのでしょうか。」
- 55 また、そのとき群衆に言われた。「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持ってわたしを捕らえに来たのですか。わたしは毎日、宮で座って教えていたのに、あなたがたはわたしを捕らえませんでした。
- 56 しかし、このすべてのことが起こったのは、預言者たちの書が成就するためです。」そのとき、弟子たちはみなイエスを見捨てて逃げてしまった。
- 57 人々はイエスを捕らえると、大祭司カヤパのところに連れて行った。そこには律法学者たち、長老たちが集まっていた。
- 58 ペテロは、遠くからイエスの後について、大祭司の家の中庭まで行った。そして中に入り、成り行きを見ようと下役たちと一緒に座った。
- 59 さて、祭司長たちと最高法院全体は、イエスを死刑にするためにイエスに不利な偽証を得ようとした。
- 60 多くの偽証人が出て来たが、証拠は得られなかった。しかし、最後に二人の者が進み出て、
- 61 こう言った。「この人は、『わたしは神の神殿を壊して、それを三日で建て直すことができる』と言いました。」

- 62 そこで大祭司が立ち上がり、イエスに言った。「何も答えないのか。この人たちがおまえに不利な証言をしているのは、どういうことか。」
- 63 しかし、イエスは黙っておられた。そこで大祭司はイエスに言った。「私は生ける神によっておまえに命じる。おまえは神の子キリストなのか、答えよ。」
- 64 イエスは彼に言われた。「あなたが言ったとおりです。しかし、わたしはあなたがたに言いません。あなたがたは今から後に、人の子が力ある方の右の座に着き、そして天の雲とともに来るのを見ることになります。」
- 65 すると、大祭司は自分の衣を引き裂いて言った。「この男は神を冒瀆した。なぜこれ以上、証人が必要か。なんと、あなたがたは今、神を冒瀆することばを聞いたのだ。」
- 66 どう思うか。」すると彼らは「彼は死に値する」と答えた。
- 67 それから彼らはイエスの顔に唾をかけ、拳で殴った。また、ある者たちはイエスを平手で打って、
- 68 「当ててみる、キリスト。おまえを打ったのはだれだ」と言った。
- 69 ペテロは外の中庭に座っていた。すると召使いの女が一人近づいて来て言った。「あなたもガリラヤ人イエスと一緒にいましたね。」
- 70 ペテロは皆の前で否定し、「何を言っているのか、私には分からない」と言った。
- 71 そして入り口まで出て行くと、別の召使いの女が彼を見て、そこにいる人たちに言った。「この人はナザレ人イエスと一緒にいました。」
- 72 ペテロは誓って、「そんな人は知らない」と再び否定した。
- 73 しばらくすると、立っていた人たちがペテロに近寄って来て言った。「確かに、あなたもあの人の仲間だ。ことばのなまりで分かる。」
- 74 するとペテロは、嘘ならのろわれてもよいと誓い始め、「そんな人は知らない」と言った。すると、すぐに鶏が鳴いた。
- 75 ペテロは、「鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言います」と言われたイエスのことばを思い出した。そして、外に出て行って激しく泣いた。

第27章

- 1 さて夜が明けると、祭司長たちと民の長老たちは全員で、イエスを死刑にするために協議した。
- 2 そしてイエスを縛って連れ出し、総督ピラトに引き渡した。
- 3 そのころ、イエスを売ったユダはイエスが死刑に定められたのを知って後悔し、銀貨三十枚を祭司長たちと長老たちに返して、言った。
- 4 「私は無実の人の血を売って罪を犯しました。」しかし、彼らは言った。「われわれの知ったことか。自分で始末することだ。」
- 5 そこで、彼は銀貨を神殿に投げ込んで立ち去った。そして出て行って首をつった。
- 6 祭司長たちは銀貨を取って、言った。「これは血の代価だから、神殿の金庫に入れることは許されない。」
- 7 そこで彼らは相談し、その金で陶器師の畑を買って、異国人のための墓地にした。
- 8 このため、その畑は今日まで血の畑と呼ばれている。

- 9 そのとき、預言者エレミヤを通して語られたことが成就した。「彼らは銀貨三十枚を取った。イスラエルの子らに値積もりされた人の価である。
- 10 主が私に命じられたように、彼らはその金を払って陶器師の畑を買い取った。」
- 11 さて、イエスは総督の前に立たれた。総督はイエスに尋ねた。「あなたはユダヤ人の王なのか。」イエスは言われた。「あなたがそう言っています。」
- 12 しかし、祭司長たちや長老たちが訴えている間は、何もお答えにならなかった。
- 13 そのとき、ピラトはイエスに言った。「あんなにも、あなたに不利な証言をしているのが聞こえないのか。」
- 14 それでもイエスは、どのような訴えに対しても一言もお答えにならなかった。それには総督も非常に驚いた。
- 15 ところで、総督は祭りのたびに、群衆のため彼らが望む囚人を一人釈放することになっていた。
- 16 そのころ、バラバ・イエスという、名の知れた囚人が捕らえられていた。
- 17 それで、人々が集まったとき、ピラトは言った。「おまえたちはだれを釈放してほしいのか。バラバ・イエスか、それともキリストと呼ばれているイエスか。」
- 18 ピラトは、彼らがねたみからイエスを引き渡したことを知っていたのである。
- 19 ピラトが裁判の席に着いているときに、彼の妻が彼のもとに人を遣わして言った。「あの正しい人と関わらないでください。あの人のことで、私は今日、夢でたいへん苦しい目にあいましたから。」
- 20 しかし祭司長たちと長老たちは、バラバの釈放を要求してイエスは殺すよう、群衆を説得した。
- 21 総督は彼らに言った。「おまえたちは二人のうちどちらを釈放してほしいのか。」彼らは言った。「バラバだ。」
- 22 ピラトは彼らに言った。「では、キリストと呼ばれているイエスを私はどのようにしましょうか。」彼らはみな言った。「十字架につける。」
- 23 ピラトは言った。「あの人がどんな悪いことをしたのか。」しかし、彼らはますます激しく叫び続けた。「十字架につける。」
- 24 ピラトは、語ることが何の役にも立たず、かえって暴動になりそうなを見て、水を取り、群衆の目の前で手を洗って言った。「この人の血について私には責任がない。おまえたちで始末するがよい。」
- 25 すると、民はみな答えた。「その人の血は私たちや私たちの子どもらの上に。」
- 26 そこでピラトは彼らのためにバラバを釈放し、イエスはむちで打ってから、十字架につけるために引き渡した。
- 27 それから、総督の兵士たちはイエスを総督官邸の中に連れて行き、イエスの周りに全部隊を集めた。
- 28 そしてイエスが着ていた物を脱がせて、緋色のマントを着せた。
- 29 それから彼らは茨で冠を編んでイエスの頭に置き、右手に葦の棒を持たせた。そしてイエスの前にひざまずき、「ユダヤ人の王様、万歳」と言って、からかった。
- 30 またイエスに唾をかけ、葦の棒を取り上げて頭をたたいた。
- 31 こうしてイエスをからかってから、マントを脱がせて元の衣を着せ、十字架につけるために連れ出した。

- 32 兵士たちが出て行くと、シモンという名のクレネ人に出会った。彼らはこの人に、イエスの十字架を無理やり背負わせた。
- 33 ゴルゴタと呼ばれている場所、すなわち「どくろの場所」に来ると、
- 34 彼らはイエスに、苦みを混ぜたぶどう酒を飲ませようとした。イエスはそれをなめただけで、飲もうとはされなかった。
- 35 彼らはイエスを十字架につけてから、くじを引いてその衣を分けた。
- 36 それから腰を下ろし、そこでイエスを見張っていた。
- 37 彼らは、「これはユダヤ人の王イエスである」と書かれた罪状書きをイエスの頭の上に掲げた。
- 38 そのとき、イエスと一緒に二人の強盗が、一人は右に、一人は左に、十字架につけられていた。
- 39 通りすがりの人たちは、頭を振りながらイエスをののしった。
- 40 「神殿を壊して三日で建てる人よ、もしおまえが神の子なら自分を救ってみろ。そして十字架から降りて来い。」
- 41 同じように祭司長たちも、律法学者たち、長老たちと一緒にイエスを嘲って言った。
- 42 「他人は救ったが、自分は救えない。彼はイスラエルの王だ。今、十字架から降りてもらおう。そうすれば信じよう。
- 43 彼は神に抛り頼んでいる。神のお気に入りなら、今、救い出してもらえ。『わたしは神の子だ』と言っているのだから。」
- 44 イエスと一緒に十字架につけられた強盗たちも、同じようにイエスをののしった。
- 45 さて、十二時から午後三時まで闇が全地をおおった。
- 46 三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。
- 47 そこに立っていた人たちの何人かが、これを聞いて言った。「この人はエリヤを呼んでいる。」
- 48 そのうちの一人がすぐに駆け寄り、海綿を取ってそれに酸いぶどう酒を含ませ、葦の棒に付けてイエスに飲ませようとした。
- 49 ほかの者たちは「待て。エリヤが救いに来るか見てみよう」と言った。
- 50 しかし、イエスは再び大声で叫んで霊を渡された。
- 51 すると見よ、神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂けた。地が揺れ動き、岩が裂け、
- 52 墓が開いて、眠りについていて多くの聖なる人々のからだが生き返った。
- 53 彼らはイエスの復活の後で、墓から出て来て聖なる都に入り、多くの人に現れた。
- 54 百人隊長と一緒にイエスを見張っていた者たちは、地震やいろいろな出来事を見て、非常に恐れて言った。「この方は本当に神の子であった。」
- 55 また、そこには大勢の女たちがいて、遠くから見ていた。ガリラヤからイエスについて来て仕えていた人たちである。
- 56 その中にはマグダラのマリア、ヤコブとヨセフの母マリア、ゼベダイの子たちの母がいた。
- 57 夕方になり、アリマタヤ出身で金持ちの、ヨセフという名の人 came。彼自身もイエスの弟子になっていた。

- 58 この人がピラトのところに行って、イエスのからだの下げ渡しを願い出た。そこでピラトは渡すように命じた。
- 59 ヨセフはからだを受け取ると、きれいな亜麻布に包み、
- 60 岩を掘って造った自分の新しい墓に納めた。そして墓の入り口に大きな石を転がしておいて、立ち去った。
- 61 マグダラのマリアともう一人のマリアはそこにいて、墓の方を向いて座っていた。
- 62 明るる日、すなわち、備え日の翌日、祭司長たちとパリサイ人たちはピラトのところ集まって、
- 63 こう言った。「閣下。人を惑わすあの男がまだ生きていたとき、『わたしは三日後によみがえる』と言っていたのを、私たちは思い出しました。
- 64 ですから、三日目まで墓の番をするように命じてください。そうでないと弟子たちが来て、彼を盗み出し、『死人の中からよみがえった』と民に言うかもしれません。そうになると、この惑わしのほうが、前の惑わしよりもひどいものになります。」
- 65 ピラトは彼らに言った。「番兵を出してやろう。行って、できるだけしっかりと番をするがよい。」
- 66 そこで彼らは行って番兵たちとともに石に封印をし、墓の番をした。

第28章

- 1 さて、安息日が終わって週の初めの日の明け方、マグダラのマリアともう一人のマリアが墓を見に行った。
- 2 すると見よ、大きな地震が起こった。主の使いが天から降りて来て石をわきに転がし、その上に座ったからである。
- 3 その姿は稲妻のようで、衣は雪のように白かった。
- 4 その恐ろしさに番兵たちは震え上がり、死人のようになった。
- 5 御使いは女たちに言った。「あなたがたは、恐れることはありません。十字架につけられたイエスを捜しているのは分かっています。
- 6 ここにはおられません。前から言っておられたとおり、よみがえられたのです。さあ、納められていた場所を見なさい。
- 7 そして、急いで行って弟子たちに伝えなさい。『イエスは死人の中からよみがえられました。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれます。そこでお会いできます』と。いいですか、私は確かにあなたがたに伝えました。」
- 8 彼女たちは恐ろしくはあったが大いに喜んで、急いで墓から立ち去り、弟子たちに知らせようと走って行った。
- 9 すると見よ、イエスが「おはよう」と言って彼女たちの前に現れた。彼女たちは近寄ってその足を抱き、イエスを拝した。
- 10 イエスは言われた。「恐れることはありません。行って、わたしの兄弟たちに、ガリラヤに行くように言いなさい。そこでわたしに会えます。」
- 11 彼女たちが行き着かないうちに、番兵たちが何人か都に戻って、起こったことをすべて祭司長たちに報告した。

- 12 そこで祭司長たちは長老たちとともに集まって協議し、兵士たちに多額の金を与えて、
- 13 こう言った。「『弟子たちが夜やって来て、われわれが眠っている間にイエスを盗んで行った』と言いなさい。
- 14 もしこのことが総督の耳に入っても、私たちがうまく説得して、あなたがたには心配をかけないようにするから。」
- 15 そこで、彼らは金をもらって、言われたとおりにした。それで、この話は今日までユダヤ人の間に広まっている。
- 16 さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスが指示された山に登った。
- 17 そしてイエスに会って礼拝した。ただし、疑う者たちもいた。
- 18 イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。
- 19 ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、
- 20 わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」